

## 第3回水戸市総合企画審議会 次第

○日時：令和5年1月20日（金）午前10時から

○場所：水戸市役所4階 政策会議室

### 1 開会

### 2 議事

- (1) 水戸市第7次総合計画基本構想・骨子「素案」について
- (2) 市民参加による提案・提言及び職員提案等について
- (3) 水戸市第7次総合計画策定スケジュールについて
- (4) その他

### 3 閉会

# 水戸市第 7 次総合計画策定に当たっての基本的な考え方

## 1 総合計画の役割及び構成

総合計画は、都市づくりの基本方針として、総合的かつ計画的な行政運営の指針であるとともに、市民や事業者の社会経済活動の指針としての役割を担うものです。

そのため、水戸市における最上位計画として、子育てや教育はもちろん、経済、健康、福祉、防災、社会資本など、あらゆる分野の施策を網羅する計画となります。

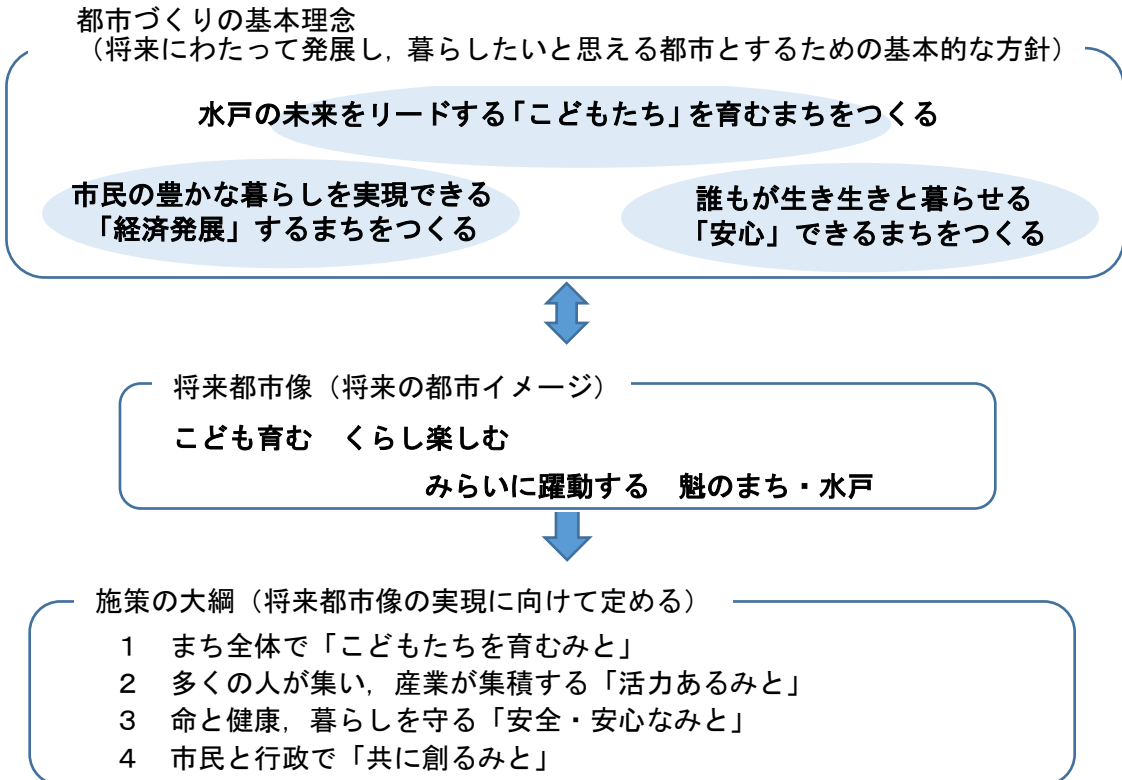
## 2 水戸市第 7 次総合計画の基本構想におけるねらい、特色について

前述のとおり、あらゆる分野の施策を網羅する計画であることを前提としつつ、社会の変化が著しい、新しい時代において、様々な選択肢から選ばれるまちとしていくため、基本構想の段階から、水戸市の進むべき方向性について、個性と魅力を際立たせる政策に優先的、重点的に取り組んでいくことを打ち出すものです。

そのため、水戸市第 7 次総合計画は、基本理念の設定に当たり、最重要の取組を「こどもたち」を育むこととし、あわせて、「経済発展」、「安心」の三つの取組の好循環を作り出すことによって、将来にわたって発展し、暮らしたいと思える都市としていくことを明らかにしてまいります。

基本計画において、各分野の具体的な施策を位置付けていく際にも、この基本理念の視点に立ち、施策の優先順位を決定し、水戸ならではの特色を打ち出した計画としていきます。

### 〔基本構想〕



※「施策の大綱」に沿って基本計画において具体的な施策を位置付けます。

# 水戸市第7次総合計画 基本構想・骨子「素案」

(第3回 水戸市総合企画審議会資料)

令和5年1月20日

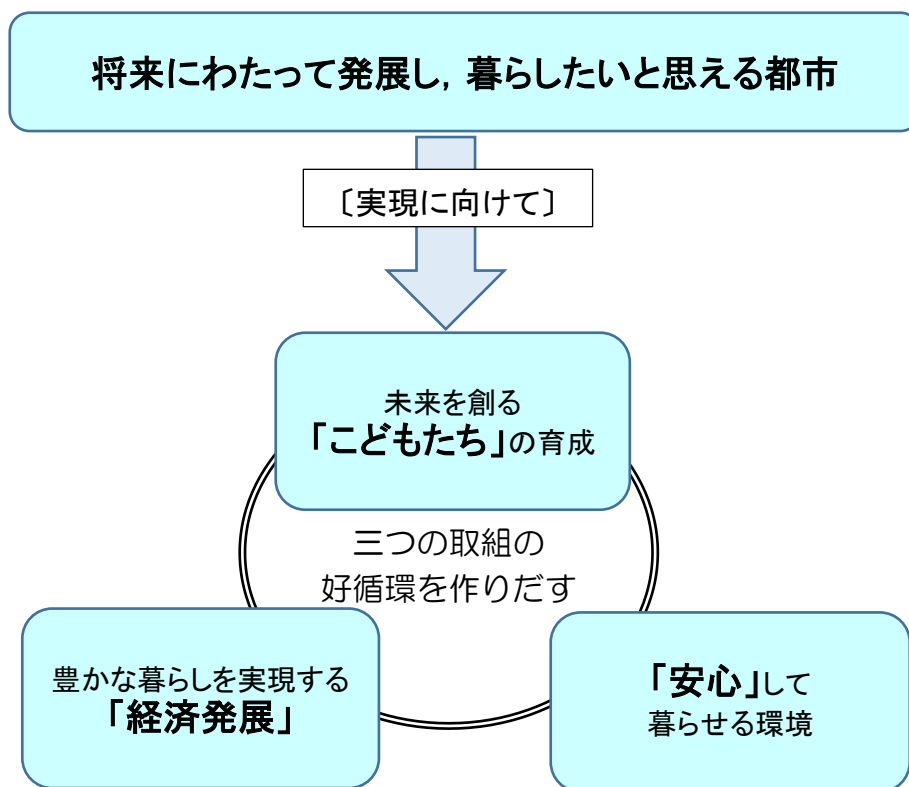
# 第1 都市づくりの基本理念

## ○基本的な考え方

人口減少、少子高齢化の進行をはじめ、時代とともに移り変わる価値観や複雑・多様化する市民ニーズなど、社会の変化が著しい、新しい時代に対応し、様々な選択肢から選ばれるまちとなっていくためには、水戸の個性と魅力を伸ばしながら、**将来にわたって発展し、暮らしたいと思える都市**としていかなければなりません。

その実現の原動力となるのは、「人」です。そのため、水戸の未来を創っていく全ての**こどもたち**をまち全体で育むことに最重点で取り組んでいきます。あわせて、豊かな暮らしを実現する多様な働く場の創出をはじめとした**経済発展**とともに、誰もが生き生きと暮らせるよう、健康づくり、医療、福祉、防災などの充実による**安心**して暮らせる環境づくりを進めていきます。

そして、これらの三つの取組の好循環を創出し、明るい未来を展望できる都市づくりを推進していきます。



さらには、水戸ならではの歴史と伝統、芸術・文化を大切にすることはもちろん、何事にも魁の精神で取り組むという姿勢のもと、DX（デジタルトランスフォーメーション）、GX（グリーントランスフォーメーション）など、新たな時代の課題にも積極的に対応していきます。

あわせて、県都として、県央地域の発展、茨城の発展をけん引するためにも、広域連携を推進し、それぞれの地域の資源を効果的に活用するとともに、陸・海・空のネットワークを生かした、活動しやすく、暮らしを楽しむことのできるまちをつくっていきます。

このような視点に立って、次の三つの基本理念のもとに都市づくりを進めるものとします。

## ○三つの基本理念

### 水戸の未来をリードする「こどもたち」を育むまちをつくる

#### 【目指すべき都市づくりの方向】

人口減少が避けられない中、本市の活力を維持し、持続的に発展するまちを実現するため、水戸の未来をリードするこどもたちをまち全体で育み、若い世代に選ばれるまちを目指します。

#### 【個性と魅力を伸ばす取組の方向】

- ・全国に魅ける安心してこどもを生み育てやすい環境づくり
- ・教育機関が集積する強みを生かした水戸ならではの魅力ある教育の推進

### 市民の豊かな暮らしを実現できる「経済発展」するまちをつくる

#### 【目指すべき都市づくりの方向】

地域の資源や特性を生かし、持続的な都市の成長、市民の豊かな暮らしを実現できる経済が発展する先進的なまちを目指します。

#### 【個性と魅力を伸ばす取組の方向】

- ・水戸ならではの歴史、芸術・文化を生かした、にぎわいづくり
- ・産業振興、働く場の創出
- ・陸・海・空のネットワークを生かした手軽に移動でき、活動しやすい環境による産業振興

### 誰もが生き生きと暮らせる「安心」できるまちをつくる

#### 【目指すべき都市づくりの方向】

誰もが生き生きと暮らすことのできるよう、安心を実感できるまちを目指します。

#### 【個性と魅力を伸ばす取組の方向】

- ・健康づくり、医療、福祉などの充実
- ・災害に強い地域環境づくり
- ・ゼロカーボンに取り組む環境づくり
- ・誰もがデジタル化の恩恵を享受できる環境づくり

## 【基本計画（総論・各論）で重点的に位置付けていく施策】

### 水戸の未来をリードする「こどもたち」を育むまちをつくる

- ・子育て世帯の経済的負担の軽減
- ・子育てDXの推進（手続きに係る負担の軽減等）
- ・子育て相談・支援体制の拡充
- ・デジタルを活用した教育，自然体験学習，芸術文化教育の充実
- ・こども一人一人の個性と能力を伸ばすきめ細かな教育の推進
- ・教育機関が集積し，こどもの教育に適したまちとしての魅力発信
- ・快適な学習環境の整備

### 市民の豊かな暮らしを実現できる「経済発展」するまちをつくる

- ・多様な働く場の創出
- ・企業誘致活動の推進
- ・若い世代のスタートアップ支援の充実
- ・地元産業の育成
- ・中小企業の成長支援
- ・まちなかのにぎわいづくり
- ・大規模コンベンションの誘致
- ・観光資源の魅力向上による誘客促進
- ・プロスポーツチームとの連携

### 誰もが生き生きと暮らせる「安心」できるまちをつくる

- ・健康づくり，生きがいつくりの推進
- ・地域医療体制の維持・確保
- ・高齢者支援，障害者支援の充実
- ・防災・減災対策の推進
- ・ゼロカーボンシティの実現に向けた取組の推進
- ・行政のデジタル化，まちのデジタル化の推進
- ・デジタル弱者支援の充実

## 第2 将来都市像

水戸市の目指す将来都市像（将来の都市イメージ）を

こども育む くらし楽しむ

みらいに躍動する 魁のまち・水戸

と定めます。

### こども育む

人口減少が避けられない中、本市の活力を維持し、持続的に発展する水戸を実現するため、未来をリードするこどもたちを、新しい時代にふさわしい環境や仕組みを構築しながら、まち全体で育むものです。

### くらし楽しむ

市民が豊かに暮らし、活躍する場を経済発展により創出するとともに、身の回りの生活環境整備や防災・減災対策の充実など、安心を実感できる環境づくりを進め、日々のくらしを楽しめるまちとしていくものです。

### みらいに躍動する 魁のまち

こどもたちをまち全体で育み、経済発展と安心を実感できる環境づくりにより、将来にわたって発展し、みらいに躍動する、ここで暮らしたいと思えるまちとしていくものです。

さらに、先人たちが築き上げた歴史と伝統、本市の特徴である豊かな自然を大切にしながら、教育、文化、福祉、医療など、あらゆる分野において魁の精神で挑戦し、先進的な発展をリードするまちを目指すものです。

### 第3 人口と経済の展望

#### 1 人口設定の考え方

全国的な人口減少，少子高齢化の流れが続く中，本市では，2020（令和2）年度の国勢調査において，それまでの人口増加傾向から人口減少に転じました。

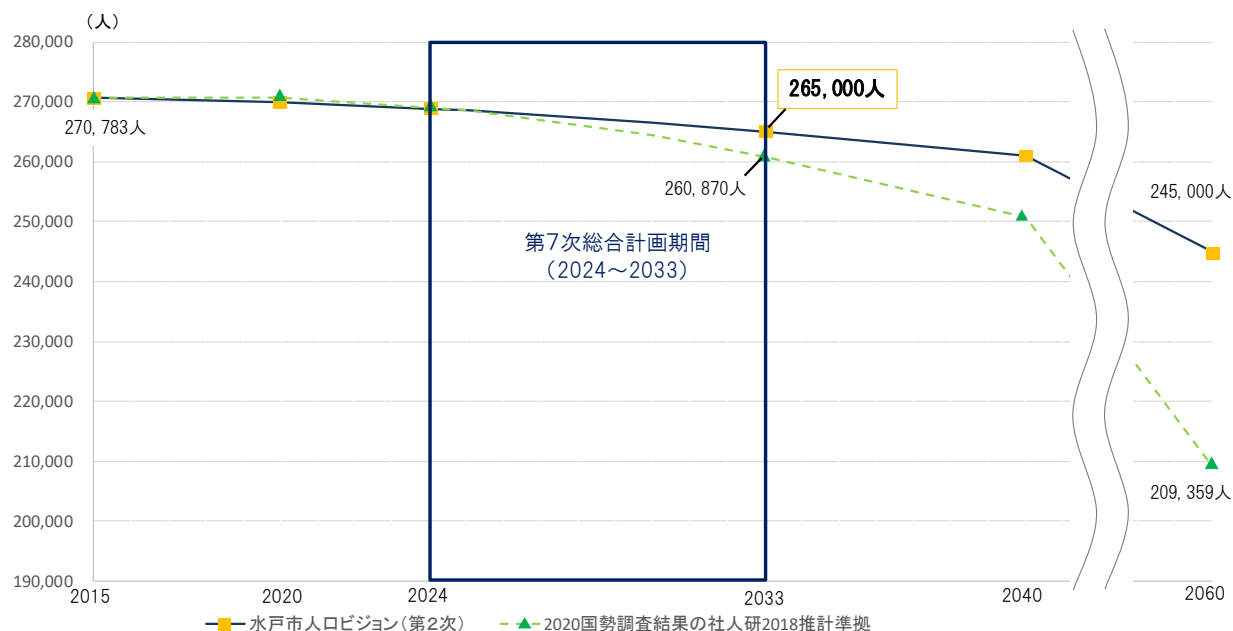
水戸市第7次総合計画の期間内においては，水戸市人口ビジョン（第2次）の長期目標人口の達成を目指し，若い世代の移住・定住等による人口減少の抑制及び活力ある都市づくりに取り組んでいきます。

また，将来にわたって都市を発展させていくため，交流人口や関係人口の増加を図り，新たな活力，にぎわいを創出することとし，展望する将来人口として，「目標人口」及び「目標交流人口」を定めることとします。

#### 2 目標人口

水戸市第7次総合計画の最終年次である2033（令和15）年度において，265,000人規模を維持することとします。

※詳細については，国立社会保障・人口問題研究所の人口推計，各施策の効果等を踏まえ，引き続き検討していきます。



[目標人口と国の推計]



### 3 目標交流人口

本市は、自然、歴史、芸術文化、プロスポーツ等の様々な地域資源に恵まれています。これらを活用し、人、物、情報の動きを生み出し、新たな活力、にぎわいを創出していくため、「目標人口」とあわせ、新たな活力、にぎわいの創出によって実現を目指す「目標交流人口」を定めることとします。

#### (1) にぎわい交流人口

魅力発信交流拠点やイベントの来場者数を基本に、達成すべき目標を設定します。

#### (2) まちなか交流人口

水戸市民会館をはじめとした、まちなかの拠点における来場者数を基本に、達成すべき目標を設定します。

※詳細については、指標の定義や実現のための施策を引き続き検討していきます。

### 4 経済の見通し

新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ地域経済の回復を図るとともに、地域経済の活性化に資する施策を展開し、継続的な経済成長を目指すこととします。

※詳細については、国の経済政策等の動向を踏まえ、引き続き検討していきます。

## 第4 都市空間整備構想

### 【都市空間整備構想における基本的方向】

これまでの都市空間整備の方向性を踏まえ、引き続き、既存の拠点を生かしつつ、集積型の持続可能な都市構造、すなわちコンパクトなまちを目指すものとします。

具体的には、現在の都市基盤を有効に活用しながら、社会資本の効率的な整備を進め、都市核を中心に、既存の地域生活拠点、地域産業系拠点、魅力発信交流拠点との連携性を高め、それぞれの特性に合わせた都市機能、居住機能の充実を図っていくものとします。

そのため、次の四つの視点に立ち、「水戸らしい地域拠点ネットワーク型コンパクトシティ」を構築するものとします。

### 水戸らしい地域拠点ネットワーク型 コンパクトシティ

#### ※ 水戸らしい地域拠点ネットワーク型コンパクトシティ

人口減少、少子高齢化の進行など、社会が変化する中で、持続可能なまちとしていくため、環境に配慮しながら、都市核を中心とした集積型の都市構造であるコンパクトなまちを目指すものとします。

あわせて、自然、歴史・文化、スポーツなど、水戸の個性でもある様々な交流拠点について、地域の特性を生かした魅力の向上とともに、都市核とそれらの地域拠点とのネットワークの充実を図るものです。

## 1 「都市核・拠点への都市機能の集積と連携強化・充実」

都市核としての中心市街地をはじめ、市内に点在する拠点に、それぞれの特性に合わせた都市機能の集積を図ります。あわせて、公共交通ネットワークによって連携を強化するとともに、デジタル技術を活用したネットワークづくり、デジタル化による利便性の高い都市環境づくりを進めます。

「都市核」については、**都市の発展、魅力の発信をリードするエリア**として、商業、業務、行政、教育、医療、芸術・文化、居住等の**様々な都市中枢機能の集積**を図ります。

交通結節点にある赤塚駅、内原駅周辺地区、古くから商業地域として栄える下市地区については、地域の中心として、市民の生活を支える交通、商業、業務、居住等の都市機能を提供することのできる**周辺地区の核**となる**「地域生活拠点」**としての**機能充実**を図ります。

また、県庁舎周辺地区や東部工業団地等の**「地域産業系拠点」**については、産業集積の中心的な役割を担う拠点として、その**機能強化**に努めます。あわせて、新たな企業誘致の用地確保策を推進します。

さらには、にぎわいと交流の創出により、都市の活力を高める**「魅力発信交流拠点」**については、市民の憩いの場としてはもとより、市外・県外から多くの人を訪れる拠点として、更なる魅力の向上と発信に取り組みます。

### 【基本計画（総論、各論）に位置付ける基本的施策の考え方】

- ・都市核について、都市の発展、魅力の発信をリードするエリアとして、様々な都市中枢機能の集積を図る。
- ・地域生活拠点について、市民の生活を支える交通、商業、業務、居住等の都市機能の充実を図る。
- ・東部工業団地や水戸西流通センター、県庁舎周辺地区等の地域産業系拠点について、機能強化と更なる集積を図る。
- ・インターチェンジ周辺地区等において、新たな企業誘致を進める。
- ・公設地方卸売市場について、機能強化・再整備を推進する。
- ・市街地の拡大を抑制しつつ、既成市街地への居住を誘導できる施策を展開する。
- ・都市核や各拠点間の公共交通ネットワークの維持、機能向上を図る。
- ・デジタル技術を活用したネットワークにより、日常生活の利便性向上を図る。

## 2 「自然を生かした環境負荷の少ない都市空間づくり」

気候変動に対応するゼロカーボンシティの実現に向け、地球環境や自然環境、生活環境の保全と向上を図り、環境負荷の少ない都市空間づくりを進めます。

そのため、本市の水・緑を象徴するシンボル空間である偕楽園及び千波湖周辺の魅力向上をはじめ、**豊かな自然をまちづくりの軸**と位置付け、その積極的な保全と再生、活用を図り、市民が自然とのふれあいによって、**安らぎや潤いを感じられる空間づくり**を目指します。

また、**公共交通機関や自転車を利用しやすい環境**づくりを進めるほか、市民、事業者、行政が一体となって、**温室効果ガスの排出削減**に取り組みます。

### 【基本計画（総論、各論）に位置付ける基本的施策の考え方】

- ・本市のシンボル空間である偕楽園・千波湖周辺の魅力向上をはじめ、豊かな自然を生かした空間づくりを推進する。
- ・公共交通機関の維持・確保と利用促進を図る。
- ・安全で快適な自転車通行空間整備を推進する。
- ・温室効果ガスの排出削減に向け、公共空間等における創エネルギー、省エネルギー施策を推進する。

## 3 「災害に強い都市基盤づくり」

近年の激甚化・頻発化する自然災害の経験を踏まえ、災害に強い都市基盤づくりを進めます。

そのため、**浸水被害の軽減**に向け、治水対策や雨水管の整備を進めるほか、**災害情報を的確かつ確実に伝達できる体制の強化**とともに、小・中学校や市民センター等の各地区における**避難拠点施設の機能強化**を図ります。

また、大規模地震にも対応できる**災害時の物資輸送路や避難経路**となる幹線道路や生活道路の整備を推進します。

### 【基本計画（総論、各論）に位置付ける基本的施策の考え方】

- ・浸水被害対策を推進する。
- ・デジタル技術を活用した災害情報の発信・伝達を強化する。
- ・避難拠点施設（小・中学校、市民センター等）の機能を強化する。
- ・避難経路等の幹線道路、生活道路の整備を推進する。
- ・消防・救急体制の充実を図る。

#### 4 「楽しめる交流拠点づくり」

水戸ならではの自然や歴史、芸術・文化、スポーツなど、様々な資源の魅力を高め、**魅力発信交流拠点としての機能向上**を図ります。特に、こどもや親子連れ、**若い世代が楽しめる拠点づくり**を積極的に推進します。

また、大規模コンベンション施設においては、戦略的な**誘致活動を積極的に展開**し、県内外から多くの人を呼び込み、にぎわいと交流を創出するとともに、水戸の知名度向上とイメージアップにつなげ、都市の活力を高めます。

##### 【基本計画（総論、各論）に位置付ける基本的施策の考え方】

- ・自然、歴史・文化、スポーツなどの特性に合わせた拠点の魅力向上を図る。
- ・こどもや親子連れ、若い世代が楽しめる視点を持ち、拠点づくりを進める。
- ・大規模コンベンション施設を生かした誘致活動を積極的に展開する。

##### 魅力発信交流拠点（候補）

###### 「楽しめる交流拠点づくり」

##### 【自然】

偕楽園・千波湖周辺地区、森林公園周辺地区、大塚池公園、植物公園周辺地区、七ツ洞公園

##### 【歴史・文化】

弘道館・水戸城跡周辺地区、備前堀周辺地区、保和苑周辺地区、博物館、大串貝塚ふれあい公園、くれふしの里古墳公園、県近代美術館、県立歴史館

##### 【スポーツ・健康】

総合運動公園、市立競技場、市立サッカー・ラグビー場、東町運動公園、青柳公園、（仮称）東部公園、県営堀原運動公園、田野市民運動場、下入野健康増進センター、内原ヘルスパーク

##### 【コンベンション】

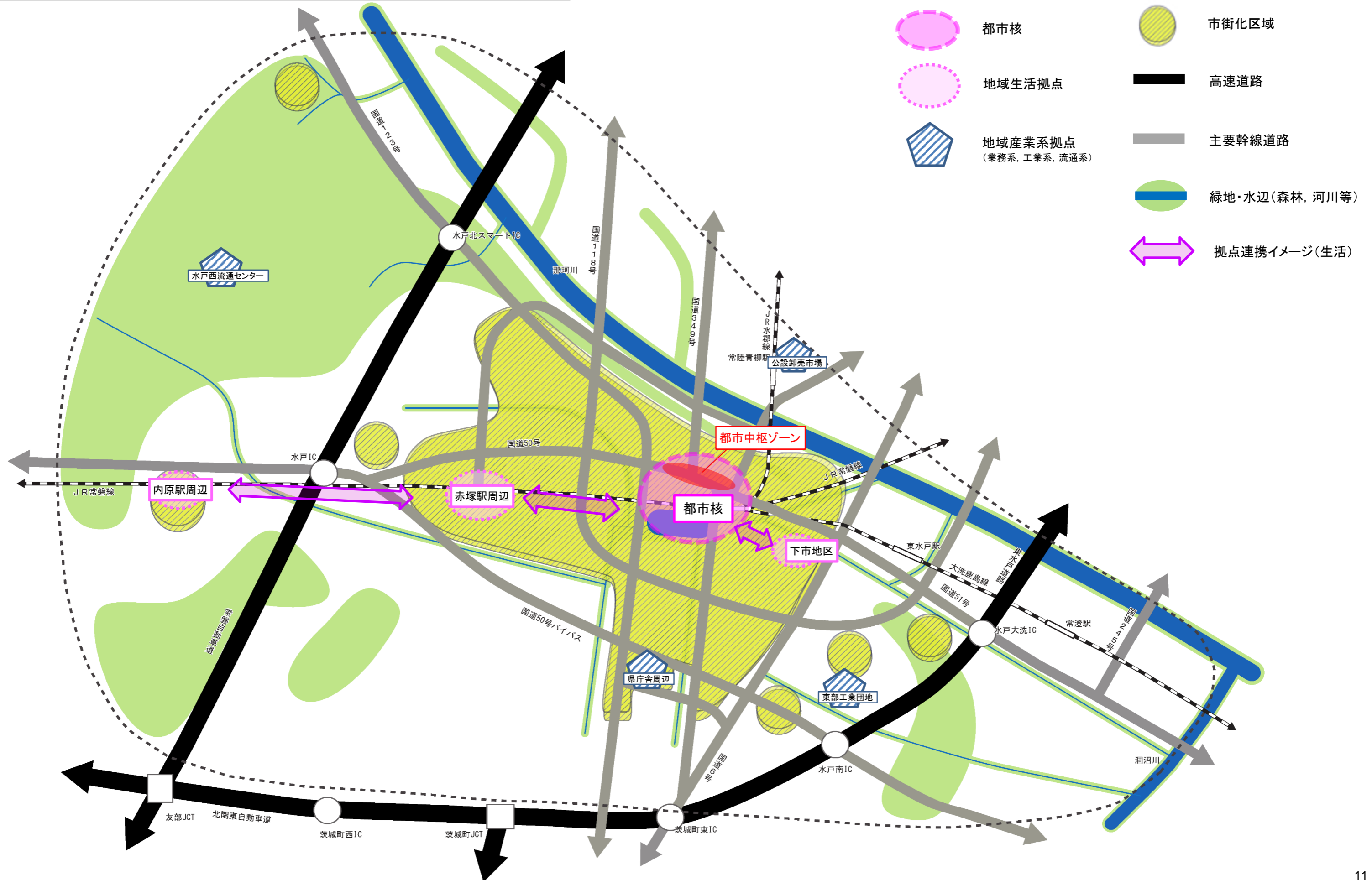
Mitori0（水戸市民会館、水戸芸術館等）、ケーズデンキスタジアム水戸、アダストリアみとアリーナ、ノーブルホームスタジアム水戸、リリーアリーナ MITO、ザ・ヒロサワ・シティ会館

##### 【こども・子育て支援】

わんぱーく・みと、はみんぐぱーく・みと、あかしあ

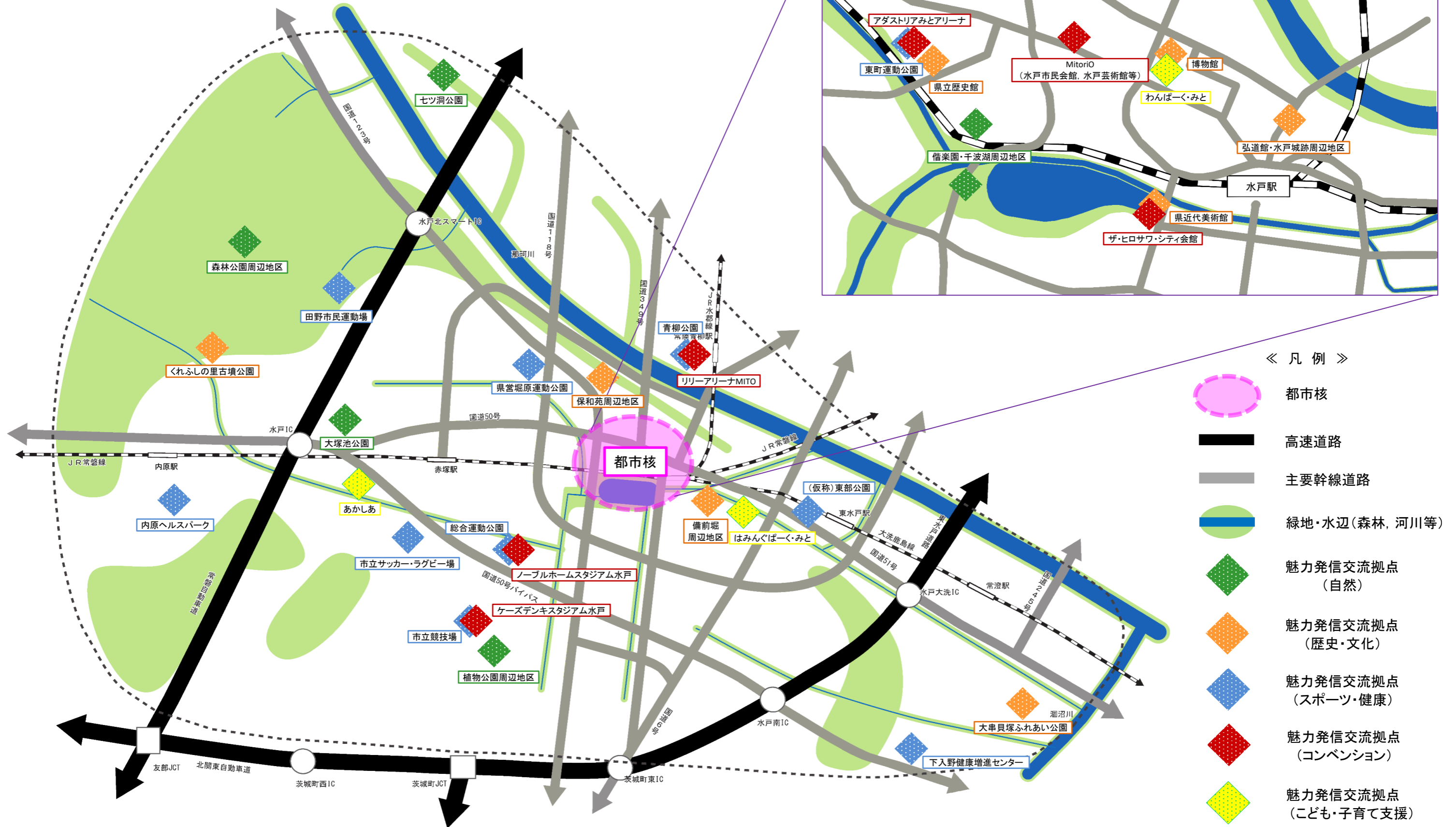
# 都市空間整備計画イメージ図

## 「水戸らしい地域拠点ネットワーク型コンパクトシティ」



# 都市空間整備計画イメージ図

## 「水戸らしい地域拠点ネットワーク型コンパクトシティ」 【魅力発信交流拠点(候補)】





## 第5 施策の大綱

将来都市像の実現に向け、施策の大綱を次のとおり定めます。

### 1 まち全体で「こどもたちを育むみと」

#### 1 こどもを生み育てやすい社会の実現

妊娠・出産支援，母子保健の充実，子育て世帯の負担軽減，こどもの貧困対策，児童虐待防止，ひとり親家庭等の支援，地域子育て支援拠点，幼保・放課後学級待機児童対策，こどもの発達支援 など

#### 2 未来をリードするこどもたちの育成

幼児教育・保育，就学前教育，学校教育，水戸スタイルの教育，快適な教育環境の整備，放課後児童の健全育成，青少年の健全育成 など

### 2 多くの人が集い、産業が集積する「活力あるみと」

#### 1 地域経済をけん引する活力づくり

起業・創業支援，働く場の創出，商業，農林水産業，工業，企業誘致，若い世代の移住・定住促進 など

#### 2 水戸らしさを生かしたにぎわいの創出

まちなかの活性化，多様な交流の創出，まちなか居住，観光資源の魅力向上，宿泊型・滞在型観光の推進，歴史的資源の保存・活用，芸術・文化の振興，シティプロモーション など

#### 3 都市の活力とにぎわいを支える基盤の強化

都市核，地域生活拠点，都市機能の集積，総合交通体系，空き地・空き家，住環境の形成 など



### 3 命と健康、暮らしを守る「安全・安心なみと」

#### 1 健やかに暮らせる環境づくり

健康づくり，病気の予防・早期発見，健康危機管理，地域医療体制の確立，小児・周産期医療体制の確保，緊急診療体制の充実，生活衛生，動物愛護 など

#### 2 支えあい，助けあう社会の実現

地域福祉，高齢者支援，障害者（児）支援，社会保障，心のバリアフリー，こどもの学習支援 など

#### 3 災害に強いまちの構築

危機管理，都市防災，地震・洪水等の災害の被害軽減，治水・雨水対策，消防・救急，原子力防災 など

#### 4 暮らしを支える基盤の強化

交通安全，防犯，生活道路，上水道，下水道，水環境，水と緑の保全，廃棄物処理，公園，斎場・霊園 など

### 4 市民と行政で「共に創るみと」

#### 1 市民が活躍するみとづくり

市民協働，ボランティア，市民スポーツ，生涯学習，男女平等参画，消費生活 など

#### 2 未来につなげるみとづくり

ダイバーシティ，自然環境，ゼロカーボン，創エネ・省エネ，多文化共生，国際交流，ワーク・ライフ・バランス，広域行政，デジタル化，持続可能な行政経営 など

## 第2回総合企画審議会における意見等について

番号	意見等	意見等に対する考え方
水戸市第7次総合計画基本構想・骨子「素案」について		
第1 都市づくりの基本理念		
第2 将来都市像		
1-1	高齢者人口が増加しており、福祉の充実はますます重要になる。高齢者施策について、もっと明文化してはどうか。	総合計画は、総合的かつ計画的な行政運営の指針であるとともに、市民や事業者の社会経済活動の指針であり、あらゆる分野における施策を網羅した計画です。 その中で、水戸市の進むべき方向性について、個性と魅力を伸ばし、都市力を高めていくためには、選択と集中により、重点的に取り組んでいく政策の考え方を明らかにする必要があります。
1-2	子どもに焦点が当たりすぎているのではないか。全世代を対象としている見せ方の方が良いのではないか。	人口減少社会にあって、将来にわたって発展し、暮らしたいと思える都市を実現していくための原動力となるのは、「人」と考えています。 そのため、今後のまちづくりを進める上で、本市が最重点で取り組まなければならないことは、「子どもたちをまち全体で育てていく」ことであり、そのことを基本理念において明確にしていこうものです。
1-3	子どもを育てやすい社会というのは、高齢者や障害者にとっても生活しやすい社会であると考え。子どもに焦点を当てながらも、誰もが生活しやすい社会を目指す旨を明文化してはどうか。	このような考え方に立ち、今回の第7次総合計画は、水戸ならではの個性と魅力を際立たせ、特色を打ち出した計画としていきます。
1-4	国においても活用されているLWC指標(Liveable Well-Being City指標)では、水戸市は「子育て世代の集まるまち」にグルーピングされている。このことから、子どもに特化していくのは良いことだと思う。	御意見のありました高齢者、障害者施策をはじめとした福祉の分野につきましても、誰もが安心して暮らせる社会の実現に向け、三つの基本理念の「安心」の中に盛り込んでおり、基本計画においても、具体的な施策を位置付けていきます。
2-1	「未来をリードする子どもたち」というと立派に育てなければならないようなイメージがある。それよりも全ての子ども一人一人が大切にされるという視点も取り入れてはどうか。	将来の水戸の発展の中心となるのは、現在の、そして、これから生まれてくる「子どもたち」です。その子どもたち一人一人がそれぞれの個性と能力を生かして、水戸に暮らす市民の一員として、水戸のまちの発展を「リード」してもらいたいという思いを表現しています。 子ども一人一人の多様な個性と能力を伸ばすきめ細かな教育を推進するなど、全ての子どもたちを大切にする施策を展開していきます。
2-2	「水戸の未来をリードする」子どもだけを育てるのかという誤解が生じる。	<b>【基本構想】【基本計画】で対応</b>
2-3	子どもたちの教育は子どもたちの可能性のためにされるものであり、環境整備は、大人の義務・行政の義務であって、そのアクションは決して「水戸の未来を創るため」にされるものではない。	

番号	意見等	意見等に対する考え方
3	<p>住みやすいまちづくり，子どもたちやその親などに優しいまちづくりをすることにより，将来，その子どもたちが水戸を居住地や勤務地として選択してもらえるように取り組むことが重要なのではないか。</p>	<p>基本理念である「水戸の未来をリードする子どもたちを育むまちをつくる」の取組の方向として，全国に魁けた安心して子どもを生み育てやすい環境づくりを進めていきます。</p> <p>あわせて，水戸で育った子どもたちをはじめ，全ての人が活躍できる「経済発展」，「安心」して暮らせる環境整備を進め，これら三つの取組の好循環を創出していくものです。</p> <p>そのことによって，子育て世代をはじめ，水戸で生まれ育った子どもたちの将来において，居住地や勤務地として，様々な選択肢の中から選ばれる都市を目指すことが基本理念の考え方です。</p> <p>具体的な取組については，基本計画に位置付けていきます。</p> <p><b>【基本計画】で対応</b></p>
4-1	<p>&lt;子どもへの取り組み&gt; (骨子素案2P-4P)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたち「を」育むまちをつくる</li> <li>・子ども育む ぐらし楽しむ みらいに躍動する 魁のまち みと</li> <li>・子どもたち「が」，水戸の未来を創っていくためには…</li> </ul> <p>趣旨は伝わるのですが，主とする対象は「子ども」なのか「子育て親」なのか，「教育機関」や「職場」なのか，どの意味でも受け取れると思うので，ぼやけてしまっている感じがします。</p> <p>特に「子ども育む」の主体を「まち全体」にしてしまっているのので，3つの基本理念で掲げた持続的発展のポイントとしている「若い世代」や「子育て親」には間接的で遠回りのような印象を受けました。</p>	<p>子どもたちが，将来成長し，水戸の未来を創っていくためには，水戸で暮らし，働き，活躍できる環境を整え，選ばれる都市としていくことが必要です。</p> <p>そのために必要かつ重要な環境は，子どもたちはもちろん，子どもたちを育てる子育て親を孤立させることなく，まち全体で育てていくことです。</p> <p>子どもたちを対象とした保健，医療政策や教育，子育て親を対象とした行政や地域での子育て支援，さらには，子育て親も働きやすい職場環境づくりを総合的に進めていきます。</p> <p>具体的な取組については，基本計画に位置付けていきます。</p> <p><b>【基本計画】で対応</b></p>
4-2	<p>現状として，「まち」で子どもを育む環境整備は難しくなっていると思います。小学校区では，従来の地域参加型市民運動会形式から個人参加型スポーツ大会形式に変更したり，子ども会や町内会の閉会休会，コロナによるおしゃべり自粛通学など，「地域」と「子ども」の接点はどんどん減少していますし，各学校の課題ともなっています。「親」や「親族」，「学校関係者」以外で子どもを育む「まち」に含まれるであろう地域住民や企業の温度を高めていくことは，親の理解を得たり，子どもの認識（知らない人と話さない，接しない）にも触れる必要があると思います。昭和，平成初期の頃のような「まち」と「子ども」の関係性の前提で「まち全体」で子どもを育むのか，新しい関係性を構築してそのようにしていくのか具体的にしないと，誰に対しても「まち全体」で取り組むイメージがぼやけてしまうと思います。</p>	

番号	意見等	意見等に対する考え方
5-1	<p>&lt;教育&gt;(骨子素案3P)            教育機関の集積する強みはどのようなことなのか、連動連携することで強みを持つのか、所在が集まっていることの強みなのか、その強みを生かした魅力ある水戸ならではの教育はどのようなものになるのか、もう少しイメージを持たせるような表現が必要かと思えます。</p>	<p>本市には、小学校が35校(市立32校, 国立1校, 私立2校), 中学校が19校(市立15校, 県立1校, 国立1校, 私立2校), 義務教育学校が1校(市立1校), 中等教育学校が1校(私立1校)あり, 小規模特認校をはじめ, それぞれの地域の特性を踏まえた特色ある教育を推進しています。</p> <p>また, 高校が16校(県立8校, 私立8校), 大学が2校(国立1校, 私立1校)と集積しており, 学生の流入人口については, 約14,000人に及んでいます。</p> <p>これらの特徴を更に伸ばし, 水戸ならではの魅力ある教育の充実を図るとともに, その魅力を発信していくほか, 学生の数が多い強みを生かしたまちづくりを進めていきます。</p> <p>具体的な取組については, 基本計画に位置付けるとともに, イメージしやすい表現も工夫していきます。</p>
5-2	<p>高校が集積していること, 小規模特認校があることなど, 他の市町村にはない具体的な水戸らしさを明文化してほしい。</p>	<p><b>【基本構想】【基本計画】で対応</b></p>
6	<p>広域連携は重要な要素であり, 県央地域の中心となる水戸市の役割についても明文化してはどうか。</p>	<p>本市は水戸都市圏のリーダーとして, 県央地域の発展をけん引する役割を担っています。そのため, 今後, 策定を進める中で, 明文化していきます。</p> <p><b>【基本構想】【基本計画】で対応</b></p>
7	<p>&lt;企業への取り組み&gt;            アンケートにおいても水戸の課題として「魅力ある企業が少ない」「商業の活力がない」とある中で, 基本構想や取組の中で, 企業に対する支援策があまり挙げられていないと思います。企業誘致にしろ, 参考にしたい他市町村の対企業施策などを参考にしながら企業にも魅力ある取組の検討が市民に還元され, 環境整備にもつながると思います。</p> <p>個人的には尖った施策の一つは企業への取り組み支援に向けられた方が効果は大きいのではないかと思います。現在所在地が水戸にある企業はもちろん, 水戸に移転したいと企業が思えるような支援や取組に注力する姿勢は重要かと思えます。スタートアップ支援や制度融資の拡張ではなく, 時限的でも税制特区や申請許可免除など, 中堅企業が成長するスピードを加速できる施策が有効かと思えます。</p>	<p>基本理念の一つに, 「市民の豊かな暮らしを実現できる経済発展するまちをつくる」を掲げています。</p> <p>スタートアップ支援や企業誘致はもちろん, 中小企業の成長に資する施策は, 地域経済の活性化を図る上で, 非常に重要であると考えています。</p> <p>具体的な取組については, 基本計画に位置付けていきます。</p> <p><b>【基本計画】で対応</b></p>

番号	意見等	意見等に対する考え方
8	三つの基本理念の経済発展の方向として、「陸・海・空のネットワーク」とありますが、「人」のことなのか、「物流」なのか、「情報」なのか、よくわかりません。基本理念の中に記すほどの重要な事項なのでしょうが、具体的なイメージが浮かびませんでした。	<p>「陸・海・空のネットワーク」については、水戸ならではの交通の利便性を生かした観光振興、企業誘致、移住促進などをイメージしており、産業振興につなげていくことを明文化したものです。</p> <p>具体的な施策については、基本計画に位置付けるとともに、より分かりやすいように、今後、策定を進める中で、明文化していきます。</p> <p><b>【基本構想】【基本計画】で対応</b></p>
9	SDGsの観点から第6次計画にはなかった事項が追加されていますが、ゼロカーボンシティは私たち市民の生き生きと暮らせる安心できるまちづくりにどのように関わるのでしょうか。宣言の関係なのかもしれませんが、災害や医療福祉、DXなどと同列にする意図を丁寧に説明することが必要かと思います。	<p>気候変動により、自然災害や健康被害のおそれが高まっており、行政、市民、事業者が連携して取り組まなければならない課題となっています。市民の安心した暮らしを実現するためにも、重要な施策として位置付けていきます。</p> <p>具体的な施策については、基本計画に位置付けるとともに、より分かりやすいように、今後、策定を進める中で、明文化していきます。</p> <p><b>【基本構想】【基本計画】で対応</b></p>
10	将来都市像はどのように設定したのか。	<p>将来にわたって発展し、暮らしたいと思える都市としていくことを目指し、その実現に向けては、「水戸の未来をリードすることもたちを育むまちをつくる」、「市民の豊かな暮らしを実現できる経済発展するまちをつくる」、「誰もが生き生きと暮らせる安心できるまちをつくる」を三つの都市づくりの基本理念として位置付けています。</p> <p>その基本理念のもと、未来をリードすることもたちを育むことに最重点で取り組むという考えとあわせ、豊かな暮らしを実現する経済発展と安心を実感できる環境づくりを進め、日々の暮らしを楽しめ、未来に躍動するまちとしていくという考えを、本市の目指す将来都市像として設定しています。</p> <p><b>【基本構想】で対応</b></p>
<b>第3 人口と経済の展望</b>		
11	目標人口はどのように設定したのか。	<p>2020年度に策定した水戸市人口ビジョン(第2次)で設定している2060年までの目標人口を参考に、2033年度に265,000人規模としています。</p> <p>今後、令和2年国勢調査の結果を基に国立社会保障人口問題研究所から公表される人口推計や各施策の効果等を踏まえ、最終的な目標人口を決定していきます。</p> <p><b>【基本構想】【基本計画】で対応</b></p>

番号	意見等	意見等に対する考え方
<b>第4 都市空間整備構想</b>		
12	水戸らしい地域拠点ネットワークの考え方と都市核、地域生活拠点の定義は。	都市核は、商業、業務、行政、教育、医療、芸術・文化、居住等の多くの人が集う、にぎわいと交流を創出する都市中枢機能が集積する区域を設定しています。 地域生活拠点は、市民の生活を支える交通、商業、業務、居住等の都市機能が集積しており、周辺地区の核となるよう更なる機能充実を目指す区域として設定しています。 そして、「都市核・拠点への都市機能の集積と連携強化・充実」など、四つの視点に立ち、水戸らしさを生かしたネットワークを形成していくものです。
13	水戸市の現状として、上市地区等で空き家が増加している一方で、県庁舎周辺地区等の郊外部で住宅が建ち並びまちが広がっているが、都市核及び三つの地域生活拠点を中心としたまちづくりを進めていくという考え方か。	第6次総合計画からコンパクトな都市構造を展望した都市空間整備を推進してきました。第7次総合計画でもそれを踏襲し、都市核を中心に、地域生活拠点や地域産業系拠点等との連携性を高め、都市機能の充実を図っていきます。
14	人口が増加している南部地区について、新たに地域生活拠点とする考えはあるか。	市南部地区においては、市街化区域に隣接する地域を中心に人口が増加していますが、交通、商業、業務、居住等が一体となった既存の地域生活拠点とは性格が異なっており、地域生活拠点としての設定は考えていません。
15	コンパクトシティをどうやって目指すのか、どのような産業を集積していくのかなど、具体的な手段や施策についても明文化してほしい。	都市空間整備構想の策定とあわせ、基本計画において具体的な施策を位置付ける中で、明らかにしていきます。 <b>【基本構想】【基本計画】で対応</b>
<b>第5 施策の大綱</b>		
16	施策の大綱の2、「多くの人が集い、産業が集積する活力あるみと」の表現も10年前ならともかく、これからの10年を見据えた場合適しているのか疑問です。企業のみならず、地域活動の場においてもリモート会議や、オンラインイベント、QR決済、クラウドファンディングなど、面前や現物、現地開催にこだわらない形式が定着しつつあります。かつては人の集積がにぎわいのイメージでしたが、現状は必ずしもそうであるとは限りません。そのような中、「多くの人集まり、企業が集積する」など「集まる」ことが「活力」であるような表現は、限定しすぎなのではないかと思えます。	地域経済の発展には、多くの人が集まり、産業が集積することが欠かせないものです。あわせて、観光やコンベンション誘致等も含め、にぎわいの創出を図り、活力を高めていきます。 また、時代の変化に伴い増加しているリモート会議やオンラインイベントなど、対面によらない形式への対応も進めていきます。 具体的な取組については、基本計画の中で、地域経済をけん引する活力づくり、デジタル化に対応した未来につなげるみとづくりに資する施策を位置付けていきます。 <b>【基本計画】で対応</b>

番号	意見等	意見等に対する考え方
<b>全体を通しての意見等</b>		
17	コンパクトシティなど、日常生活で使われない言葉が使われている。市民にも分かりやすい表現方法にしてほしい。	コンパクトシティについては、集積型の持続可能な都市構造を目指すというものであり、第6次総合計画からこの視点に立ちまちづくりを進めています。 今後、策定を進める中で、分かりやすい表現方法となるよう、用語解説を用いるなど、工夫していきます。  <b>【基本構想】【基本計画】で対応</b>
18	全体的に包括的、網羅的、一般的という感じを受けた基本理念でした。一般企業での「経営理念」「社是社訓」「ビジョン」が記されていると思うのですが、うまくつながっていないような感じを受けました。それはわかりにくさに繋がってしまうと思います。抽象的な表現になってしまうのは理解できますが、対象と目的がぼやけているので、より掴みにくい感じがしました。	今後、基本構想にとどまらず、基本計画の策定を進める中で、その関係性等も含め、分かりやすい表現としていきます。  <b>【基本構想】【基本計画】で対応</b>
<b>アンケート</b>		
19	現状施策に対する満足度とこれからの施策の重要性について、同じ項目でアンケートを実施していますが、満足度の回答では「どちらでもない」が多く、重要度の回答では「重要である」側に多い傾向にあると思います。これは単純にどちらでもないという評価と、施策の内容や結果がわからないからどちらでもないとしている意向も含まれるとも思います。課題として、前者の場合は満足度を向上させる具体的な取組の実施、後者に対しては情報の発信や実施施策の評価の公表などが検討できると思います。	アンケート結果については、市政に対する市民の重要な声であり、計画の策定に当たっては、調査した全項目について、その結果の要因等をしっかりと精査し、施策の立案に生かしていきます。 また、今後のアンケートの実施に当たっては、施策の内容や市の取組状況を把握した上で回答いただけるよう、行政情報の発信に努めていきます。  <b>【基本計画】で対応</b>

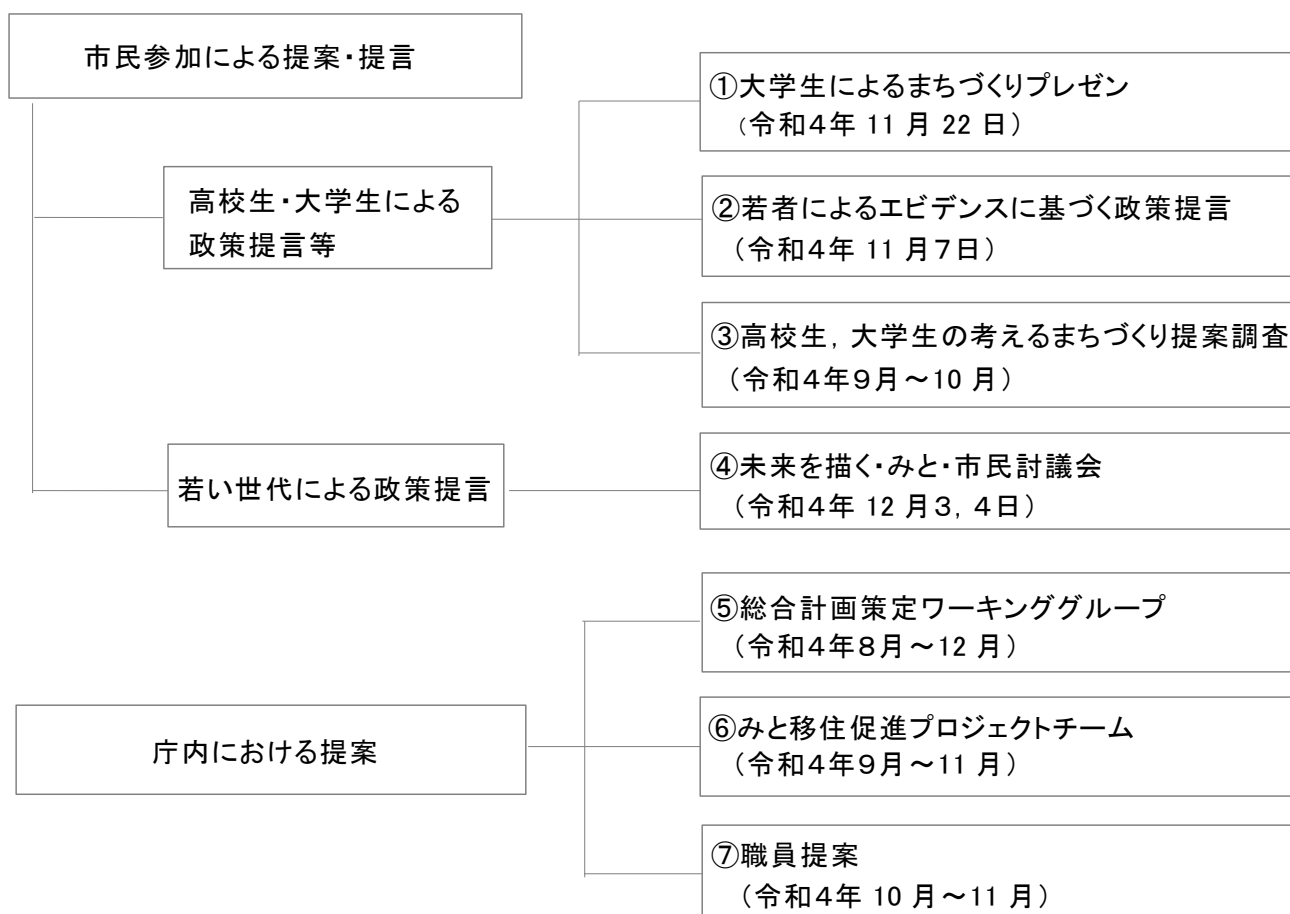
## 市民参加による提案・提言及び職員提案等について

水戸市第7次総合計画の策定に当たっては、市民と行政との協働の視点から様々な市民参加の手法を取り入れるとともに、庁内に対しても、職員提案の募集等を行い、全職員の参画による計画づくりを進めているところである。これらの提案等については、事業の効果や優先性を勘案し、評価した上で、具体的な施策を位置付ける基本計画に反映することとする。

## 1 提案・提言の手法

市民参加による提案・提言については4つの手法、庁内における提案については3つの手法により実施した。

【図 提案・提言の手法】





## 2 提案・提言の概要

### (1) 高校生・大学生による政策提言等

#### ア 大学生によるまちづくりプレゼン【提案件数：17件】

##### (ア) 概要

未来をリードする大学生が市の提示するテーマに対し、調査・検討を行い、これからの水戸市のまちづくりについて、大学生の視点から提案を行う。

##### (イ) 参加者

茨城大学生

##### (ウ) テーマ

中心市街地活性化、水戸ならではの観光振興、子育て支援の充実、福祉の充実、地球温暖化対策・循環型社会に向けた取組の促進

#### イ 若者によるエビデンスに基づく政策提言（行政懇談会）【提案件数：13件】

##### (ア) 概要

水戸市が持続可能な地域社会として安心して住みやすいまちであり続けるためには、SDGsの実現に向けた取組や誰もが個性と能力を發揮できるまちとなることが重要であるという認識のもと、データやエビデンス（根拠）に基づく提言を行う。

##### (イ) 参加者

茨城大学生，常磐大学生

##### (ウ) テーマ

「SDGs×地域×ジェンダー」～水戸市の未来を考える～

#### ウ 高校生，大学生の考えるまちづくり提案調査【自由記述提案件数：55件】

##### (ア) 概要

若い世代（高校生，大学生）に対して，市が提示するテーマについてのアンケートをインターネットにより行う。

##### (イ) 参加者

茨城大学生（水戸市在住又は水戸キャンパスに通学する学生），常磐大学生，常磐大学高等学校生（特別選抜コース1年生）

##### (ウ) テーマ

中心市街地活性化

## (2) 若い世代による政策提言

### ア 未来を描く・みと・市民討議会（水戸青年会議所との連携協力による開催）

【提案件数 28 件】

#### (ア) 概要

市民が課題・問題点等について意見交換し、これからの水戸のよりよいまちづくりに資する提案を行う。

#### (イ) 参加者

水戸市在住の満 16～39 歳の個人

#### (ウ) 討議テーマ

全体テーマ「若い世代の活力で、持続的に発展するまちにしよう」

個別テーマ

討議 1 「子育て支援の取組～子育てしやすいまちにするには～」

討議 2 「魅力的な働く場の創出～若い世代に住み続けてもらうためには～」

## (3) 庁内における政策提案

### ア 総合計画策定ワーキンググループ【提案件数 39 件】

#### (ア) テーマ

基本構想・骨子「素案」の施策の大綱を参考に分野を設定し、設定した分野にこども、デジタルイノベーションをそれぞれ掛け合わせたテーマ

### イ みと移住促進プロジェクトチーム【提案件数 3 件】

#### (ア) テーマ

しごと、地域交流、暮らしのそれぞれに子育て世帯を掛け合わせたテーマ

### ウ 職員提案【提案件数 143 件】

#### (ア) テーマ

新総合計画策定基本方針における重点 19 項目に関すること

## 市民参加による提案・提言及び職員提案等一覧

1 高校生・大学生による政策提言等	
(1) 大学生によるまちづくりプレゼン	P. 1
(2) 若者によるエビデンスに基づく政策提言(行政懇談会)	P. 5
(3) 高校生, 大学生の考えるまちづくり提案調査	P. 9
2 若い世代による政策提言	
(1) 未来を描く・みと・市民討議会	P. 17
3 庁内における政策提案	
(1) 総合計画策定ワーキンググループ	P. 21
(2) みと移住促進プロジェクトチーム	P. 27
(3) 職員提案	P. 29

# 1 高校生・大学生による政策提言等 (1) 大学生によるまちづくりプレゼン

№	テーマ	現況, 課題等	提案内容
1 田中 耕市先生 ゼミナール			
1	まちを咲かせる～新市民会館をHUBとして～	<p>○中心市街地の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 にぎわいが少ない</li> <li>2 消費行動が少ない</li> <li>3 店舗利用が少ない</li> <li>4 歩行者が少ない</li> </ol> <p>歩行者が少ないことが多くの課題に影響していると考えられ、最大の課題である。また、新市民会館に多くの人に来て、中心市街地を人が歩くことにはつながらないと考えられる。</p>	<p>○まちさきプラン 新市民会館をHUBとし中心市街地の歩行者数の増加を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 水戸らしさをまちなかに まちさきプランの先駆けとして、水戸らしさを押し出す。水戸らしさとして、まちなかににぎわいが戻ってきてほしい(=まちに花が咲いているような状態になってほしい)という願いを込めて、公共物や店舗の外観を、梅をモチーフにした色で統一し、新たな水戸らしさを創造していく。</li> </ol>
2			<ol style="list-style-type: none"> <li>2 UME Lineをまちなかに 新市民会館と名所をつなぐ道しるべ、歩行者と自転車の通行を区分する専用帯として、UME Lineを歩道上に整備する。梅を基調とした色で施設名や距離等の案内を表示することで、歩行者の「歩きやすい」と「歩いて楽しい」を実現する。</li> </ol>
3			<ol style="list-style-type: none"> <li>3 イベントムードをまちなかに 新市民会館でイベントが行われている雰囲気(イベントムード)が中心市街地を歩くと伝わるよう、まちなかを演出する。 例)音楽系イベント イベントの出演アーティストの楽曲を流す。 公式ポスターやフラッグを設置する。</li> </ol>
2 小原 規宏先生 ゼミナール			
4	水戸ならではの観光振興	<p>○これからのツーリズムの考え方 マスツーリズムからサステナブルツーリズムへの変化</p> <p>○水戸(市)の観光課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 マーケット調査, DMへの意識や取組の不足</li> <li>2 市民の観光への関心の低さ コミュニティツーリズム視点の欠如</li> <li>3 観光者の宿泊率の低さ 経済効果の小ささ, 観光関連事業者の経営, 雇用への影響</li> <li>4 空間の商品化の取組の不足</li> </ol>	<p>・水戸で朝活 朝にしか見えない水戸の姿を発見することができる。シビックプライドの醸成, 人の流れや交流の創出, ロングステイヤーやワーケーションにつながる。 例)千波湖×朝×ヨガ, 偕楽園×朝×お茶など</p>
5		<p>・景観×ウォーカブルシティ 景観の整備により, 回遊性が高まるとともに, ウォーカブルシティの実現のきっかけになる。ワークショップの繰り返しの開催による市民の観光まちづくりに参画する機会の増加, 既存の観光ルートのブラッシュアップにつながる。 例)観光視点からのゾーニングの強化とまちのミュージアム化</p>	
6		<p>○水戸(市)らしさ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 偕楽園:誰もが楽しめる(ユニバーサル)</li> <li>2 水戸藩(中心性を有した歴史都市):茨城県央・県北の中心地(DMO)</li> <li>3 水戸学:先進性(サステナブルツーリズム)</li> </ol>	<p>・水戸の歴史と食文化をめぐるガストロノミーツーリズム 食文化と地域性を再考する機会となることで, 高付加価値化された「本物」の食のツーリズムをメニューとすることができるなど, 地域教育やシビックプライドの醸成にも寄与する。また, 新たな広域連携のきっかけになる。 例)ガストロノミーツアーやガストロノミーマップの作成など</p>

1 高校生・大学生による政策提言等 (1) 大学生によるまちづくりプレゼン

№	テーマ	現況, 課題等	提案内容
3 清山 玲先生 ゼミナール			
7	子育て支援の充実	1 隠れ待機児童が存在している。 2 病児・病後児保育について、利用者ニーズに応えられていない。 3 保育園等に子どもを預けることへの不安がある。 4 子育て支援情報が行き届いていない可能性がある。 5 出産、子育てについて、経済的な不安を抱えている。 6 保育士が不足している。	○よりよい子育てができる環境のための施策 1 保育所について ・隠れ待機児童ゼロ ・企業との連携による企業内保育所・保育スペースの設置 オフィスに子どもを預けられる条件の整備
8			2 病児・病後児保育について ・手続きの簡略化(インターネットの利用) ・急な利用者に対応できるよう医療機関と連携
9			3 子どもを預けることへの不安の解消について ・入園前の1日体験の実施, 合同説明会の実施 ・各園の費用や保育内容等の詳細, 動画を市HPに記載 ・入園手続きを分かりやすく簡単にするため, webを活用 ・SNS等を活用した積極的な子育て支援情報の発信
10			○水戸市に住む人に子どもを産み育てたいと思ってもらうための施策 経済的な支援 ・児童手当の所得制限の撤廃 ・保育料の第2子の半額 ・おむつ・ミルク代の一部支援 ・ランドセルや制服の支援等
11			○水戸で保育士になりたい・続けたいと思ってもらうための施策 1 待遇の改善(賃金上昇) ・国への要望, 周辺自治体と賃金の上昇を促す取組 ・潜在保育士や新卒保育士への支援の強化
12			2 待遇の改善(働き方改革の推進) ・違法労働を是正し, 安心して休める保育職場環境づくり ・デジタル化による業務簡略化

# 1 高校生・大学生による政策提言等 (1) 大学生によるまちづくりプレゼン

№	テーマ	現況, 課題等	提案内容
4 土屋 和子先生 ゼミナール			
13	認知症カフェから考える高齢者が集う居場所づくり ～官民連携で創り出す福祉のまちづくり～	<ol style="list-style-type: none"> <li>後期高齢者が増加するため、認知症カフェを増やす必要がある。</li> <li>現在の市の移動支援では、認知症カフェへの送迎ができない。最寄りの駅やバス停から離れている認知症カフェもある。</li> <li>情報提供の手法が主に紙ベースで、情報量が少ない。関係団体からICTを活用した情報提供の要望がある。</li> </ol>	<p>○高齢者の居場所づくりの拡大</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>認知症カフェの飲食店店舗等における開催</li> <li>移動時間が限られている民間所有の車両を活用した新たな移動支援サービス(認知症カフェまでの送迎)の創出</li> <li>市LINE公式アカウントによる認知症カフェに関する情報の積極的な発信</li> </ol> <p>企業のCSR活動を推進し、民間企業と連携して1～3の施策を実現する。これらの施策に取り組むことで、認知症カフェは、認知症当事者及びその家族だけでなく、地域住民なども参加できる交流の場となる。</p>
14	介護助手の普及による介護人材不足の解消 ～高校生が担い手となる福祉のまちづくり～	市内の事業所のうち、6割以上が介護人材不足を訴えている。	<p>○介護助手×若年層(高校生)</p> <p>市内に高等学校が多く集積する特徴を生かし、高校生を介護助手として活用し、介護人材を確保する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>高等学校での介護助手の養成講座の開催</li> <li>高校生が施設で介護助手のアルバイトとして働けるよう、市が学校と施設とをつなぐ。</li> </ol>
5 原口 弥生先生 ゼミナール			
15	水戸市ゴミの分別の現状と対策	令和2年4月からごみの分別方法が新しくなったが、ポスター等の分別表示が切り替わっていないアパートやマンションがあり、正しい分別が行われていない。	<p>○普段の生活を通じた環境意識の向上</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>集合住宅への周知 アパート・マンション(特に大学周辺)の分別表示が切り替わっているかを確認し、管理会社等に切り替えを依頼する。</li> <li>市民への透明袋の配布 プラスチックごみを入れる透明・半透明袋を各世帯に無料配布する(透明袋等は回収した廃プラを原料とする)。分別が切り替わったことを周知できるメリットがある。</li> </ol>
16	コンポスト設置による食品ロスの改善並びに環境意識の向上	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校給食から発生する食品ロスの約40%が可燃ごみとして処理されている。生ごみを可燃ごみとして処理するときには、焼却炉の温度が下がることから、多くのエネルギーを必要とし、CO2の排出量も増えるなど、悪循環が起きている。</li> <li>生ごみのリサイクル率が近年上昇していない。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>学校・学校給食共同調理場へのコンポストの設置 コンポストを利用して、生ごみを可燃ごみから資源として活用することで、悪循環を断ち切ることができ、また、生ごみのリサイクル率を上昇することができる。 学校へ設置することで、以下の効果が期待される。 ・生産地と消費地のサイクル ・将来世代の食品ロスの減少 ・保護者・市民のコンポストの利用拡大</li> </ol>
17	水戸市の温暖化対策に対する施策の提言	地球温暖化を「他人事」ではなく「自分事」として認識する必要がある。小さなことでも多くの人に取り組むことで大きな効果が発揮されることから、「きっかけ」を作る。	<ol style="list-style-type: none"> <li>アースアワーでの市民・企業へ向けた節電意識の啓発 (例)市内の教育機関、公共施設、商業施設でのポスター掲示等  アースアワーイベントを行うことにより、以下の効果が期待される。 ・市民の節電意識の共有 ・消灯による節電</li> </ol>

1 高校生・大学生による政策提言等 (2) 若者によるエビデンスに基づく政策提言(行政懇談会)

№	テーマ	現況, 課題等	提案内容
1 茨城大学 経済政策論ゼミナール(転出グループ)			
1	水戸市の若者の転出者を減らすために何が効果的か	<p>○遊ぶ場所の誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・茨城大学の学生を対象としたアンケートを行ったところ, 遊ぶ場所が少ないこと, おしゃれ・ファッションに関する施設が少ないことを不満として挙げる学生が多かった。</li> <li>・遊ぶ場所のジャンルとしては「レジャー・アウトドア」, 「スポーツ」が特に求められており, 遊ぶ場所に不満を持つ割合は女性が高いことから, 上記の点に焦点を当てた提案を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビルの空きテナントや屋上の使用されていないスペースを利用し, レジャー, アウトドアスポーツを中心とした施設を誘致する。</li> <li>・インスタ映えする内装やスポットを作り, 若い女性をターゲットとする。</li> </ul>
2		<p>○おしゃれ・ファッション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おしゃれ・ファッションに関する施設は市内に多くあるにもかかわらず, 大学生を対象に実施したアンケートでは「おしゃれ・ファッションに関する施設が少ない」と回答した学生が多い。</li> <li>・若者向けの施設が少ないことや, 宣伝不足により若者に認知されていない可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公園や空き地を利用し, ファッションに特化したフリーマーケットの開催</li> <li>・ビルの空きテナントを利用した期間限定のポップアップストアの開催</li> <li>・ファッション系に特化した紹介サイトを作成し, SNSで周知する。</li> </ul>
2 茨城大学 経済政策論ゼミナール(転入グループ)			
3	水戸市の若者転入者増加に何が有効か	<p>○若者に人気の業種の企業誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が求める企業の特徴と若者の転入率について調査したところ, 規模が大きい企業や若者に人気の業種が多い地域では若者の転入率が高いことが判明した。</li> <li>・情報通信業は若者に人気の業種であることに加え, 男女間の賃金格差が小さいことから, 情報通信業の増加は, 男女の賃金格差の是正にも貢献することが期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助制度の周知を図るために, ホームページをさらに分かりやすく, 興味を引くようにリニューアルする。</li> <li>・一目見ただけでどこにアクセスすればほしい情報が手に入るのかが分かるようにユーザーインターフェースを設定する。</li> </ul>
4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信業の企業誘致に際しての課題として, 「企業立地に際しての制度周知が図られていないこと」, 「家賃低価格が好まれる傾向がある情報通信業で, 水戸は家賃価格での優位性がないこと」が挙げられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の建物を利用したレンタルオフィス等の開設</li> <li>・起業支援の場としてスタートアップカフェを開設し, 水戸市での起業を促すことで取引先の増加にもつながるのではないかと期待する。</li> <li>・行政がレンタルオフィスを作ることによって, コストが抑えられ水戸市進出の足掛かりになるようにする。</li> </ul>

1 高校生・大学生による政策提言等 (2) 若者によるエビデンスに基づく政策提言(行政懇談会)

№	テーマ	現況, 課題等	提案内容
3 常磐大学 家族社会学ゼミナール(レインボーグループ)			
5		<p>○若い世代に向けた性的マイノリティに関する施策について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10代のLGBTQ当事者は20代と比較し、孤独・孤立リスクが高いため、10代の若者の早期支援や、周囲への理解普及が求められる。</li> <li>・子どもが保護者にカミングアウトした際に、保護者から否定されたという「カミングアウトの壁」が親子間に見られるため、子どもだけではなく保護者に対する啓発を行い、親子間での共通認識を持つことが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生向け等、ターゲットとなる世代を定めたパンフレットを作成し、多様な性への正しい理解を広める。学校単位での配布に加え、保護者にも同じものを配布することで、親子間における認識の差をなくす。</li> </ul>
6	すべての人が自分らしく生活できる都市へ	<p>○職場における性的マイノリティへの配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内において性的マイノリティへの配慮を行っている企業は事業規模にかかわらず少ないという現状がある。</li> <li>・職場での配慮がないことによる健康被害も報告されており、働きやすい職場が少ないことは、大都市に人材が流出する原因となることに加え、多様な性のあり方を受け入れられないということは、都市としての、企業としての硬直性を生むことにもつながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LGBTの当事者が働きやすい職場についてのガイドラインを示し、取組を行う企業を評価する。行政によるガイドラインの制定や、履歴書等に性別欄の記載がない企業を公開することにより、働きやすい職場環境を整える。</li> </ul>
7		<p>○同性パートナーによる要介護認定の申請について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水戸市ホームページでの要介護認定申請の説明には、同性パートナーによる申請について明文化されていない。</li> <li>・要介護認定は高齢者世代に関わることであるため、性的マイノリティの問題が若い世代だけの課題ではないという認識を図ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同性パートナーによる要介護認定申請を認める。家族のかたちの多様化や、介護サービスの多様化が望める。</li> </ul>



1 高校生・大学生による政策提言等 (2) 若者によるエビデンスに基づく政策提言(行政懇談会)

番号	テーマ	現況, 課題等	提案内容
4 常磐大学 家族社会学ゼミナール(両立支援グループ)			
8	若者・女性への両立支援に向けて 隠れた地域資源大国のまちづくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNSやZoom等を利用して相談を受けるオンライン相談窓口を設置し, 情報提供やヤングケアラーの居場所づくりを行う。</li> </ul>
9		<ul style="list-style-type: none"> <li>○若者, 女性の生活と介護について</li> <li>・水戸市における高齢者の独居割合は県内1位と高い割合となっており, 85歳以上の高齢者の約35%(R2国勢調査より)が独居となっている。</li> <li>・若い世代にとって, 生活支援や介護を必要とする身内が世帯外に居住しており, 生活の延長線で高齢家族のケアを行っている可能性が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤングケアラーの経験がある学生がボランティアとして相談窓口に参加する。</li> </ul>
10		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ヤングケアラーの問題について</li> <li>・ヤングケアラーの相談窓口として, 国は子ども若者総合相談センターの設置を推進しているが, 人材不足等の理由で設置されていない都道府県もあり, 茨城県内には未だ設置されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者支援の専門的な知識や高いスキルを持つ人材の育成</li> <li>・子ども若者総合相談センターの市民への周知(講座の開催等)</li> </ul>
11		<ul style="list-style-type: none"> <li>○介護と仕事の両立支援について</li> <li>・水戸市における要介護認定率は国, 県と比較して高く, また介護保険外の介護支援やサービスを使用していない高齢者も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通が不便な地域に住む高齢者を対象とし, 買い物バスを運行することにより高齢者の買い物ニーズを解消する。</li> </ul>
12		<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護者が在宅で行っている介護事例は, 買い物や洗濯等の家事や外出時の付き添い・送迎, 金銭管理や生活面に必要な手続き等の家事支援が主なものとして挙げられており, 介護者は仕事をしながらも, やらなければならない介護が多い状態である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の家族が仕事をしながら行っている家事支援の一部について, 行政サービスや高齢者同士の支え合いによりカバーする。 (例: 福井市で実施しているファミリーサービスクラブ)</li> </ul>
13		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自家用車を使用せずに通院・買い物を自分でしたいというニーズが高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政手続のデジタル化や遠隔診療の推進により, 介護者が行っていた金銭管理や生活面での手続きの負担が軽減できる。</li> <li>・高齢者を対象としたスマートフォンの使い方講座等のデジタル講座の開催により, オンラインで気軽に人とのつながりを持ち, 孤立化を防ぐことができる。また, 高齢者がスマートフォンを利用して自分でできることを増やす。</li> </ul>

# 1 高校生・大学生による政策提言等 (3)高校生, 大学生によるまちづくり提案調査(自由記述)

番号	提案内容
1	水戸の中心市街地は、歩きやすさはあるが閉まっているお店もあり、歩く距離と満足度が合わないように感じる。水戸駅から京成デパートまでも歩けない距離ではないが、間の商店街を歩くメリットがあまりないので、足を延ばそうとは思わないことが多い。歩きながらショッピングできるほどのお店の密度があれば楽しいと思う。
2	水戸駅に男性向けの服屋がほしい。
3	低コストで学生も楽しめるイベントや店舗などを強くアピールしてほしい。
3	駅や駅周辺のお店が観光地のようにしてほしい。音楽イベントができる場所ができればいいなと思う。
4	もっと水戸駅以外にも「寄りたい！」と思える場所が必要だと思う。 普段は水戸駅から常磐大学区間をバスで通学しているが、若者が乗り降りする場所はほとんど学校付近と水戸駅だと感じる。 もっとバスを降りてみようと思える場所や、せっかくだからバスに乗らずに歩いてみようと思える環境があれば、多くの店に寄ってもらえたり町の活性化に繋がると考える。
5	南町や泉町に飲食できるスペースが欲しい(外とかで)。
6	中心市街地は大人な感じの店舗が多く、なかなか学生としては入りづらい。
7	水戸駅北口前の塾の送迎車が交通の危険を生んでいると思う。
8	かつてLIVINがあった空き地をどうにかしてほしい。
9	「コミケツとスペシャル5in水戸」が2010年に開催されたと記憶しているが、同人誌即売会やコスプレイベントをMitoriOやユードムアリーナで開催してほしい、水戸駅マイムビルにはオタク産業に関連する店舗が集積しておりオタクが好むイベントへの需要は秘かに熟成されつつあると思う。開催するにあたっては周辺の大学や高校からイベントスタッフを募集することも可能だ。
10	芸術館でのフリマや水戸の町を歩行者天国にして大規模なイベントを多くやって欲しいです。
11	4月に水戸に来たばかりですが、駅周辺エリアと、ミトリオエリア、その他エリアは分断されている印象があり、一体となった感じはしません。それぞれに用事があるときにそこに足を運んでいます。例えば、駅とミトリオエリアを地下歩行空間で結ぶ、弘道館エリアや千波湖エリアを周遊バスで区域内100円など手軽に利用できるようにする(水戸はバスが高い印象があるため)など、それぞれを結び付ける必要があるように感じます。 また、水戸駅の北口と南口の車での行き来がもう少し容易になること、全体的に道がスムーズに流れるようにならないと、車での行き来も面倒に感じます。道路の拡張や右折レーンの整備などが早急に必要ではないでしょうか。 ※地下歩行空間や100円バスは以前在住していた札幌市で実際にありました。
12	繁華街なので仕方ない部分はあるが、中心市街地の治安が悪いイメージがあり、寄りつきにくくなっている印象がある。(駅南や大工町など)
13	バスの路線が南北で分断されていて使いづらい。
14	以前水戸駅から京成百貨店まで歩いたことがあるが、歩いている人がとても少なかった。また、商店街のシャッターが寂しかった。私の親世代は以前のこの通りはとにかく人であふれていてよそ見をしているとぶつかるぐらい賑わっていたと聞いた。そのような賑わいを見たい。 埼玉県川越市にも人がたくさん集まる通りがあるが、老舗と言うよりかは現代のお店がたくさん並んでいたり、蔵造りなどのテーマ性を持っている。水戸にもそのようなテーマ性を持った通りが欲しい。

# 1 高校生・大学生による政策提言等 (3)高校生, 大学生によるまちづくり提案調査(自由記述)

番号	提案内容
15	<p>ミトリオには各場所駐車場が設けられていて自家用車で行きやすいと思うが、誰もが自家用車で通えるとは限らない。特に学生などの若い世代や免許返納をした高齢者などにも通ってもらえるよう、公共交通の充実も進めていけるとより良いと考える。</p>
16	<p>「つい写真が撮りたくなる街づくり」          ひとつの街に写真映えするひとつのテーマがあって、歩いてるだけでついカメラを構えたいくなるそんな町になったらと思います。水戸市内を歩いていると最近昔からあった商店街が少しずつ新しくなっていて、そこのお店の壁が映えスポットになっていて写真を撮りました。こういう場所がもっとたくさんあったら、いやもう町ごと写真スポットだったら！最高なのではないでしょうか？          また、水戸の中心部は車も止めづらいのでたくさんの人に「映えるから歩きたい！」と思って貰えるような街づくりをすることで楽しい町になるとと思います。</p>
17	<p>他所から来た人に「娯楽が少ない」とよく言われる。          また高校生以下は徒歩と電車が主な移動方法なので駅から近いと集客しやすいと思う。</p>
18	<p>東京の高円寺や下北沢に行った時に、グルメや衣服、劇場などの様々なジャンル別にまとめられた張り紙を街中で見かけた。それを参考にして散策して、とても便利だったし楽しかった。          実際スマホは手元にありすぐに調べることもできるが、街の風景や雰囲気を見ていると、中々調べるということがしづらくなる、と感じた。          そこで、水戸の市街地でもこのように一目見てわかる散策マップを張り紙として掲示すると良いのではないか。</p>
19	<p>水戸市の楽団の音楽監督に小澤征爾先生が就かれています。彼が現在あまり体調がすぐれないことは承知していますが、彼の指揮する演奏を実際に新しい文化会館で実際に聞いてみたいと思いますし、もっとこれを宣伝すべきだと思います。          音楽好きの人間として、これだけは水戸市にお願いしたいです。</p>
20	<p>水戸城など、水戸の町の歴史的景観を教育や観光などにもっと活かすことができるよう、整備してもらえたらいいなと思います。</p>
21	<p>水戸の街中を歩いていると喫煙者が多いと思う。非喫煙者からすると臭いし健康に悪いからやめてほしい。</p>
22	<p>子育て制度をもっと魅力的にしてほしいです。(例えば、子育てが初めてでも分かるようなパンフレットを作成するなど)</p>
23	<p>新しく水戸市民会館がオープンしたら50号の通りが混雑すると思うので、緩和する策をとってほしいです。</p>
24	<p>HP上で水戸市のカフェを紹介するコンテンツを作って欲しいです。</p>
25	<p>電車の本数を多くしてほしい。お店の店舗数を増やしてほしい。</p>
26	<p>バスの本数が少ない、お店が少ない。</p>
27	<p>茨城大学のほうに全然お店がなく、水戸駅付近に集中しているので赤塚駅を利用している人からしたら学校帰りに立ち寄れる場所がなくて悲しい。          つくば市に無印良品大型店舗や文房具専門店のようなものが着々とできているが、水戸市は街に根付いたレトロな感じのお店が多いのでとても親近感がわき、行ってみようかなと思える。そのような雰囲気はこれからも作っていきべきであると思う。</p>
28	<p>大学が近いのに、GUやユニクロなどチェーン店？の服屋さんがないので、難しいとは思いますが、服屋さんがあるといいなと思います。</p>

# 1 高校生・大学生による政策提言等 (3)高校生, 大学生によるまちづくり提案調査(自由記述)

番号	提案内容
29	少し時間を潰したいときなどに利用できるフリースペースがあると良いと思う。勉強や仕事目的で利用できるカフェがほしい。
30	ジムなどの運動施設を増やしてほしい。ライブなどを開催するアーティストの誘致を積極的に行ってほしい。
31	子供だけでなく、大人も行って遊びやすい大きなゲームセンターがあればぜひ行きたいです。
32	洋服店が沢山造設されて惹かれた。また、大規模なライブ会場に憧れた。
33	水戸に遊ぶ場所が少ないと思うので、他の街にもあるラウンドワンがあればいいと思いました。
34	大きくて広々とした誰でも使用可能な大きな図書館などの施設等が少ない気がします。オシャレで開放感がある場所は、勉強に集中したい時や静かな場所で過ごしたい時、自分の居場所としたい時に大切な存在となるのではないかと思います。
35	気軽に遊べて、お金があまりかからない場所がほしいです。
36	東京都秋葉原と駅周辺の娯楽施設や買い物できる場所の数が違った。水戸の方が秋葉原より個人的に住みやすい。
37	駅前がもっと賑やかだった。色々なお店があるので何回も行きたくなった。
38	ラウンドワンのようなものがあればもっと栄える気がします。
39	遊べる店が少ない。
40	住んでるところにない服屋さんがあること
41	行きたいと思うイベントが全部東京や大阪で開催されている件
42	お店の数の多さ
43	店舗の数 遊び場所 (補足:店舗の数や遊び場所を増やしてほしい)
44	歩き回れる広いスペースがある。 (補足:運動, 健康のためのスペース)
45	IKEA, ららぽーと, ラウンドワン等の商業施設があり, とても利用しやすく, 楽しかった印象を受け, 是非水戸にも参入し, 集客が見込めると思うので是非検討願います。
46	水戸市は様々な場所に魅力的な場所があるが, 実際に歩いた時に核となる部分が分かりにくかったので, 何か水戸を表す目玉のようなものを押し出すべきだと感じた。
47	私は, 東京出身ですが, 水戸の便利さには驚きました。都内と違ってそこまで人がいないため, 過ごしやすくも魅力のアピールしていくべき場所だと思います。
48	3年半水戸で過ごしましたが, 住みやすさはあるけれど, 移住したり観光に来るほどではないような印象があります。水戸市にしかない魅力を少しずつ増やして行って欲しいです。
49	水戸は坂が多い。そのため, 自転車や徒歩での移動が非常に不便。特に, 自転車の時は段差もあるため, 乗ってとても気分が悪い。そうすると, 車を持っていない学生はバスでの移動が盛んになるが, それもまた制約(金額が高い, SuicaやPASMOが使えない)があるため需要が低く, とてもじゃないが水戸市内での遊びで乗ろうとは思わない。

# 1 高校生・大学生による政策提言等 (3)高校生, 大学生によるまちづくり提案調査(自由記述)

番号	提案内容
50	茨城県の方は, 自転車や自動車など運転が荒いところがある。
51	水戸は他の町に比べ, 鮮やかではない。 道が悪く, 自転車危ない, 歩いている人が少ない。
52	活気があまり無いのでそこをなんとかする。
53	ゴミ箱増やしてほしい。 (補足:まちの美化)
54	図書館の大きな机を増やしてほしいです。
55	街灯を増やしてほしい。

調査結果の概要

(1) テーマ

中心市街地の活性化について

(2) 回答数

大学:110件(茨城大学:57件, 常磐大学:53件)

常磐大学高等学校:99件

(3) 担当課(行政順)

新市民会館整備課, 商工課, 関係各課

【属性調査項目】

(1) 回答者の属性

ア 性別

大学

男性	女性	その他, 回答しない	無回答
29.1%	66.4%	4.5%	0%

高校

男性	女性	その他, 回答しない	無回答
45.5%	54.5%	0%	0%

イ 居住地

大学

水戸市内	水戸市外(茨城県内: 県央地域)	水戸市外(茨城県内: 県北地域)	水戸市外(茨城県内: 県西地域)	水戸市外(茨城県内: 県南地域)	水戸市外(茨城県内: 鹿行地域)	茨城県外	その他
47.3%	14.5%	19.1%	0.9%	13.6%	3.6%	0.9%	0%

高校

水戸市内	水戸市外(茨城県内: 県央地域)	水戸市外(茨城県内: 県北地域)	水戸市外(茨城県内: 県西地域)	水戸市外(茨城県内: 県南地域)	水戸市外(茨城県内: 鹿行地域)	茨城県外	その他
48.5%	30.3%	11.1%	2.0%	4.0%	4.0%	0%	0%

【中心市街地について】

(2) MitoriOの認知度

**大学生, 高校生ともに「知らない」が7割以上**

新市民会館周辺エリアの愛称であるMitoriOの認知度について回答してもらった結果は以下のとおりである。

大学

知っている	知らない
29.1%	70.9%

高校

知っている	知らない
25.3%	74.7%

(3) 中心市街地に出かける頻度

**月に1回以上が大学生は約7割, 高校生は約8割の一方で, ほとんど行かないも約2割**

中心市街地へ出かける頻度について, 5項目から選択してもらった結果は, 次のとおりである。

大学

第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
週に1回以上	月に2~3回	ほとんど行かない	月に1回	年に4~5回
27.3%	25.5%	20.9%	16.4%	10.0%

高校 (放課後や休日に出かける頻度)

第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
週に1回以上	月に2~3回	ほとんど行かない	月に1回	年に4~5回
37.4%	29.3%	17.2%	13.1%	3.0%

(4) 中心市街地に出かける目的

**大学生、高校生ともに「買い物」、「飲食」が上位**

中心市街地へ出かける頻度が「週に1~2回」、「月に2~3回」又は「月に1回」とお答えの方に、足を運ぶ目的について、13項目(高校生は12項目)から選択(複数回答可)してもらった結果は、次のとおりである。

大学

第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
買い物(衣料品や雑貨等)	買い物(食料品、日用品)	飲食(カフェ、喫茶店等)	アルバイト	散策(目的の店舗はなく、色々な店舗を見て回る場合を含む)
47.4%	28.9%	26.3%	25.0%	23.7%

高校(大学生への選択肢から「飲食(居酒屋、バー等)」「アルバイト」を除き、「勉強・自習(図書館や塾等)」を追加している)

第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
買い物(衣料品や雑貨等)	飲食(カフェ、喫茶店等)	買い物(食料品、日用品)	飲食(レストラン、食堂等)	勉強・自習(図書館や塾等)
69.6%	44.3%	40.5%	38.0%	22.8%

(5) 中心市街地に行く手段

**大学生はバスが約3割、高校生は「電車とバス」が約3割**

中心市街地へ出かける頻度が「週に1~2回」、「月に2~3回」又は「月に1回」とお答えの方に、行く手段について、8項目から選択してもらった結果は、次のとおりである。

大学

第1位	第2位	第4位	第5位
バス	電車とバス	自家用車	自転車
28.9%	18.4%	18.4%	17.1%
			電車と徒歩 6.6%

高校

第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
電車とバス	自転車	自家用車	バス	電車と自転車
29.1%	24.1%	16.5%	10.1%	8.9%
				電車と徒歩 8.9%

(6) 中心市街地に足を運ばない理由

**大学生は「どのような店舗・施設があるかよく分からない」、高校生は「娯楽施設が少なく、遊ぶところが少ない」が1位**

中心市街地へ出かける頻度が「年に4~5回」又は「ほとんど行かない」とお答えの方に、行かない理由について、14項目(高校生は12項目)から選択(複数回答可)してもらった結果は、次のとおりである。

大学

第1位	第2位	第3位	第4位	
どのような店舗・施設があるかよく分からない	買い物に行きたいと思う店舗がない	娯楽施設が少なく、遊ぶところがない	どのようなイベントがあるかよく分からない	
47.1%	35.3%	26.5%	23.5%	
			行きたいと思うイベントがない 23.5%	
				気軽に立ち寄れる場が少ない 23.5%

高校(大学生への選択肢から「道路の案内標識が分かりづらいなど、車で移動しにくい」、「駐車場が使いづらいなど、車で買い物等に行きにくい」を除いている)

第1位	第2位	第3位	
娯楽施設が少なく、遊ぶところがない	どのような店舗・施設があるかよく分からない	買い物に行きたいと思う店舗がない	
50.0%	40.0%	30.0%	
		飲食をしたいと思う店舗がない 30.0%	
			行きたいと思うイベントがない 30.0%

(7) 普段主に利用する店舗、施設等

普段買い物や飲食、遊び等に行く店舗、施設等について、店舗名を記述してもらい、ジャンル別に集計した結果は、次のとおりである。

ア 買い物

**大学生は複合商業施設、高校生は水戸駅周辺施設が1位**

大学

第1位	第2位	第3位
複合商業施設(イオンモール水戸内原、ファッションクルーズ等)	水戸駅周辺施設(エクセル、OPA等)	スーパーマーケット(カスミ、マルト等)
33.6%	22.7%	20.0%

高校

第1位	第2位	第3位
水戸駅周辺施設(エクセル、OPA等)	複合商業施設(イオンモール水戸内原、ファッションクルーズ等)	スーパーマーケット(ヨークベニマル、パワーmarkt等)
34.3%	15.2%	12.1%



イ 飲食

大学生、高校生ともにファミリーレストラン、ファストフード店、水戸駅周辺施設が挙がっていることに加え、大学生ではカフェも上位

第1位	第2位	第3位	
ファミリーレストラン(サイゼリヤ、ココス等) 19.1%	カフェ(スターバックス等) 14.5%	ファストフード店(マクドナルド等) 12.7%	水戸駅周辺施設(エクセル、OPA等) 12.7%

高校

第1位	第2位	第3位
水戸駅周辺施設(エクセル、OPA等) 30.3%	ファストフード店(マクドナルド等) 20.2%	ファミリーレストラン(サイゼリヤ、ココス等) 18.2%

ウ 遊びや芸術・文化

大学生は複合商業施設、水戸駅周辺施設のほか、「特になし」が同程度の割合で上位、高校生是水戸駅周辺施設が約5割で1位

第1位	第2位	第3位
複合商業施設(イオンモール水戸内原、ファッションクルーズ等) 15.5%	水戸駅周辺施設(エクセル、OPA等) 14.5%	特になし 12.7%

高校

第1位	第2位	第2位
水戸駅周辺施設(OPA、エクセル等) 46.5%	水戸芸術館 8.1%	ゲームセンター 8.1%

エ 店舗・施設を利用する理由

大学生、高校生ともに「好きな商品やサービスを取り扱っているから」が6割以上で1位

ア〜ウで記入した店舗・施設を利用する理由について、8項目から選択(複数回答可)してもらった結果は、次のとおりである。

第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
好きな商品やサービスを取り扱っているから 65.5%	交通の便が良いから 35.5%	品ぞろえや体験できるサービスが豊富だから 25.5%	店舗・施設の雰囲気が好きだから 23.6%	1日中楽しむことができるから 19.1%

高校

第1位	第2位	第3位	第5位
好きな商品やサービスを取り扱っているから 63.6%	1日中楽しむことができるから 25.3%	品ぞろえや体験できるサービスが豊富だから 20.2%	店舗・施設の雰囲気が好きだから 19.2%

【まちづくり提案】

(8) 中心市街地で利用したい、参加したいと思う要素について

大学生、高校生ともに、店舗やイベントのほか、自由に使用できる居場所が上位

若い世代が行きたくくなるような中心市街地づくりのために必要だと思う要素のうち、中心市街地で利用したい、参加したいと思う要素について、19項目(高校生は18項目)から選択(複数回答可)してもらった結果は、次のとおりである。

第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
学割制度があること 58.2%	魅力的な店舗(カフェ、喫茶店等)があること 56.4%	魅力的な店舗(衣料品や雑貨等)があること 54.5%	飲食店等を食べ歩き(回遊)できるイベントが開催されていること 50.9%	自由に使用できるスペースがあること 49.1%

高校(大学生への選択肢から「魅力的な店舗(居酒屋、バー等)があること」を除いている)

第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
飲食店等を食べ歩き(回遊)できるイベントが開催されていること 59.6%	学割制度があること 58.6%	魅力的な店舗(衣料品や雑貨等)があること 54.5%	自由に使用できるスペースがあること 53.5%	魅力的な店舗(カフェ、喫茶店等)があること 51.5%



(9) 中心市街地で自分が主体となって活躍できる、協力したいと思えることについて

大学生は「ボランティア活動等の社会活動を行う場があること」、高校生は「SNS等を活用して中心市街地の店舗・施設の情報発信をすること」がそれぞれ約5割で1位

若い世代が行きたくなくなるような中心市街地づくりのために必要だと思う要素のうち、中心市街地で自分が主体となって活躍できる、協力したいと思えることについて、9項目から選択(複数回答可)してもらった結果は、次のとおりである。

大学

第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
ボランティア活動等の社会活動を行う場があること 45.5%	イベントの実行委員会など、運営側の立場として関わる機会があること 32.7%	SNS等を活用して中心市街地の店舗・施設の情報発信をすること 27.3%	サークルや部活動等の展示・発表の場があること 20.0%	空き店舗の活用について取り組んだり、自分の意見を伝えたりする機会があること 16.4%

高校

第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
SNS等を活用して中心市街地の店舗・施設の情報発信をすること 45.5%	ボランティア活動等の社会活動を行う場があること 40.4%	イベントの実行委員会など、運営側の立場として関わる機会があること 19.2%	サークルや部活動等の展示・発表の場があること 17.2%	自分が企画したイベントを主催できる場があること 16.2%

## 2 若い世代による政策提言 (1) 未来を描く・みと・市民討議会

番号	テーマ	提案内容(投票数上位順)
テーマ①「子育て支援の取組～子育てしやすいまちにするには～」		
1	<p>市役所のDX化 (要旨)                      こどもに係る申請手続きは、窓口が分かれており、煩雑で分かりづらいほか、忙しい子育て世帯が市役所に足を運ばないといけないうケースも多いため、申請書類の電子化など、電子申請に対応可能な市役所になるとよい。                      (出生届や保育園の入園手続きが電子申請により一括で行える仕組みづくり)</p>	<p>おうち市役所(いつでも、どこからでも電子申請できる仕組み)                      ・申請の手順や必要な添付書類などが確認できるAIチャットボットを設置する。                      ・市役所からの申請手続きに関する通知について電子化し、申請も電子で行えるようにする。</p>
2		<p>ワンストップ窓口の設置                      ・出生届や保育園の手続きなど、こどもに係る申請を一括で行えるワンストップ窓口を設置する。                      ・マイナンバーとそのこどもが受けられる支援を紐付けることで、マイナンバー情報から申請可能な支援の一覧を確認することができるようにする。そのことにより、窓口における手続きの簡略化を図れるようにする。</p>
3		<p>子育て関係DX申請の充実                      ・つくば市では、保育所の申込みや児童手当の申請を電子でできる。これら先進自治体の取組を参考にし、各種手続きのDX化を図る。</p>
4		<p>(電子申請端末が)どこでも使える                      ・平日しか開庁していない市役所には行きづらいため、子育て世帯でも気軽に行けるショッピングモールなどにタブレット端末を設置するとともに、操作方法を教えてくれる人員を配置し、各種申請ができるようにする。</p>
5		<p>チャットボットの設置                      ・申請内容や手続き方法、そもそもその申請ができる対象か分からないことがあるため、いつでも気軽に問合せできるチャットボットを設置する。</p>
6		<p>用語等を分かりやすくする                      ・申請書などに、市民には馴染みのない用語が出てきて理解が難しい時があるため、分かりやすい用語へ変換するほか、用語を解説してくれるアプリを作成する。</p>
7		<p>各種の通知を行う                      ・更新が必要な申請について、更新時期が近づいた時、及び申請を忘れてしまった時に電子通知してくれるアプリを作成する。また、そのアプリで、窓口の待ち時間を通知してくれることで、最低限の時間の確保で手続きを済ませることができるようになる。</p>

## 2 若い世代による政策提言 (1) 未来を描く・みと・市民討議会

番号	テーマ	提案内容(投票数上位順)
テーマ①「子育て支援の取組～子育てしやすいまちにするには～」		
8	(こどもが)安心して医療を受けられる環境 (要旨) 発達障害など、見た目ではわかりづらい障害を持つこどもは多い。 こどもの障害や特性で心配することなく、かかりつけ医で医療サービスを受けられるとよい。	行政からのポジティブな発信 ・世間の障害に対する知識・ポジティブ面の認識の向上のため、行政から適切な情報発信を行う。 ・行政の専門相談窓口であっても、的確なアドバイス等を受けられないため、レベルアップしてほしい。
9		どの病院でもオンラインでの予約が可能 ・体調の悪いこどもを待合室で長時間待たせるのは負担が大きいため、病院のオンライン予約化を推進する。
10		「子育て応援してます」の意思表示ステッカーの作成 ・医療機関の待合室などで、こどもが騒いしまうと、親は周りに気を遣う。子育て応援ステッカーを待合室に掲示したり、来院者が身に着けることで、子育て世帯に対して、やさしさを示すことができるとよい。
11		医療相談窓口のレベル向上 ・#8000に連絡しても、受け入れてくれる病院がなかったり、遠方の病院などを案内されてしまうことがあるため、サービスを向上してほしい。
12		LINEで相談できる総合窓口 ・こどもの障害に関することで、相談したいことがあっても、どこに相談すればいいかわからないため、困ったことや疑問を気軽にLINEで相談できる窓口を設置してほしい。
13		・障害児の親同士が効果的な情報交換等ができる場が少ないため、機会を増やしてほしい。

## 2 若い世代による政策提言 (1) 未来を描く・みと・市民討議会

番号	テーマ	提案内容(投票数上位順)
テーマ②「魅力的な働く場の創出～若い世代に住み続けてもらうためには～」		
14	女性が働きやすい環境 (要旨) 企業内保育所の整備(市の支援で企業内に保育士を雇用する)子育て時間休の導入。企業が導入を促進するよう企業に対しインセンティブを与える仕組みがあるとよい。 企業内託児所だけでなく定職についていない保育士のスポット派遣による子どもを連れていける職場	保育士の資格制度や手当てなどの構造Change ・保育士は、子どもを預かり育てるといった重大な責任があるなど、大変な仕事にも関わらず、正当な評価をされていないため、資格制度の見直しや手当ての充実などを図る。
15		家族休暇をつくる ・企業において、「家族休暇」などフランクで親しみやすいネーミングの休暇制度を創設する。
16		子どもと一緒に働ける会社 ・社内にベビーシッターを配置するなど、会社に子どもを連れていける環境を整備する。
17		複数の企業が共同で託児所を作る ・単独の企業で企業内保育所を運営するのは難しいため、複数の企業が共同して保育所を運営できるよう、市で補助金を出すなど支援する。
18		高校生対象の職場見学会の実施 ・地元の企業の取組や良さを知ってもらうため、これから進路を決める高校生を対象とした、職場見学会を開催する。
19		男女ともに意見が言いやすい環境づくり ・職場の男女比率が同じであったり、女性の管理職比率を高めることで、男性も女性もともに意見を言いやすい環境づくりを進める。
20		もっと有給休暇を取りやすくする ・夫婦と一緒に育児休暇を取れたり、時間で休みを取れるなど、有給休暇が取得しやすい環境づくりを進める。
21		女性特有の休暇の認知向上と表彰制度の創設 ・生理など女性特有の理由で休みが必要な時があるが、なかなか認知されていない。生理休暇など女性特有の休暇制度のある企業に対して、表彰を行う。
22		休める会社 ・子どもの予定や体調などによる、急な休みや時間休を取りやすい環境が整った企業が増えるように、行政として支援してほしい。
23		保育士経験者のデータベース化 ・潜在保育士で一時預かりをしたいと希望している人をデータベース化し、子どもを預けたい親とのマッチングを行う仕組みをつくる。
24		男性向けの家事のやり方講座の開催 ・男性と女性の価値観は違い、男性は働き、女性は家庭に入るという昔の考え方が今も根付いているため、男性向けの家事のやり方講座を実施するなど、マイナスな固定概念を変えていく。
25		リモートワークの推進 ・働きたいときに働くことができるよう、リモートワークを推進する。
26		十分なトイレの設置 ・会社のトイレは男女兼用であったり、化粧室がなかったりするので、トイレの設備を充実させる。
27	地域社会での保育機能を信じる(コミュニティで子どもを見れる環境) ・地域コミュニティの希薄化により、子どもを見守ってくれる信頼できる人が近隣にいない。昔のように地域で子どもを育てる環境があるとよい。	
28	安心して子どもを預けられる保育所が利用できる ・家から近い、保育士との信頼関係が築ける、子どもが自ら行きたいと思えるといった保育所が利用できるとよい。	

### 3 庁内における政策提案 (1) 総合計画策定ワーキンググループ

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
(1)子育てしやすいまちづくりの視点		
(1)-①子ども・子育て支援の充実		
1	外国人保育士等の就労支援	保育士就労支援として、外国人の保育士資格取得希望者に対して日本語学校の授業料等に係る補助金を交付するほか、国際交流センターにおいて保育に関する日本語講座を開設する。 なお、保育士のほか、事務職、栄養士等の職種で保育園に勤務する外国人に対しても補助金を交付する。
2	出産・子育て世帯に焦点を当てた市独自の妊産婦支援	母子手帳申請時に世帯に対して、産後ギフト(おむつ、ベビーベッド)の配布を行う。産後ギフトの企画・作成に際しては、子育て体験学習として小中学生を参加させる。また、医療費の無償化を図る。
3	流産・死産サポート事業	流産・死産を経験した夫婦やその親族に対し複数の支援を実施し、精神的負担の軽減を目指す。 ・対象者へのカウンセリング体制の強化 ・同境遇者との交流の機会の紹介(NPO団体を紹介) ・病院等でのカウンセリング実施のチラシの配布、母子手帳交付時・子育て支援ガイドブック・市HPでの周知 ・産婦人科医の増員 ・お見舞金の交付(何週目以降の方など条件を設定)
4	子どもの遊び方改革 小児を対象とした全天候対応型遊び場施設の整備 地域の垣根を越えた子ども遊び実行委員会の設立	新たに、小児を対象とした全天候対応型遊び場施設を整備し、子ども同士のコミュニケーションの中で生まれる遊びを通じて、創造力や危機管理能力等を育む。 また、子ども会の機能を補完する子ども遊び実行委員会を市民との協働で設立し、自然体験や遊びを通じて非認知能力の向上を図るなど、子どもの健全な育成を推進する。
5	プレイバスで繋ぐ遊び場ネットワーク事業	既存施設(市民センターや公園等)において、プレイバス事業(遊具等を載せた車両で、既存施設の空きスペースに出向き、即席の遊び場を創る事業)を展開することにより、子どもの遊び場と多世代交流の場を創出する。
6	タブレットを用いた子どもの意思表示機会の提供	子どもの貧困対策やヤングケアラー等の実態把握のためのアンケートを実施する。アンケート入力後は、子ども自身に子ども食堂や相談窓口等の情報を提供するほか、入力された内容については学校でも把握し、必要に応じて行政等につなぐ。 また、子ども自身が虐待等の相談を直接相談窓口へ発信できるようなアプリを導入する(AIが相談内容を振り分け適切な相談窓口に導く)。
(1)-②水戸ならではの魅力ある教育の推進		
7	スポーツの利用を主にした体育館の提供	地域の子育て世帯が、雨が降った時などに気軽に小学校の体育館に行き、自由にバスケットボールやサッカー、卓球やバドミントンなどの屋内スポーツを利用することができるようにする。 また、希望制で、過去に学校でスポーツを指導していた教師OBやプロスポーツ選手から指導をしてもらえるようにする。
8	未就学児からのデジタルエキスパート育成事業	小・中学校と同様、幼稚園や保育所等においても、タブレット端末を支給するなど、デジタル教育の環境整備を行う。 デジタル教育の授業を設け、未来の水戸を担うデジタルエキスパートを育むとともに、デジタルモラル等を学ぶことにより、インターネット等に潜む危険から身を守る方法を身につけてもらう。
9	老人とあそぼう	小学校の授業や放課後学級に高齢者を招き、自身の体験談等を話してもらうほか、遊びや料理をともにする時間を設けることにより、多世代の交流を通じた地域活性化を図る。
10	部活動支援事業	部活動の地域移行を見据え、新たな指導者の発掘や指導者に対する技術指導を推進するとともに、学校間における指導内容の平準化を図る。



### 3 庁内における政策提案 (1) 総合計画策定ワーキンググループ

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
11	学生の少年団・部活動の基盤強化	スポーツ指導者として活動したいが、活動先が見つからない人、今後指導者として活動することも考えている大学生などを少年団・部活動と結び、スポーツ活動の活性化や指導者不足への対応に努める。 また、指導者に対しては、プロスポーツチームのコーチを講師とした研修の機会を設ける。
12	3世代同居・近居 子育て世帯Uターンに向けた移住支援パッケージ	子どもに対し、水戸への郷土愛や帰属意識を育むため、小規模特認校等において、水戸ならではの芸術や文化、歴史を活用した授業を行う。教育環境を充実することで、親になった時に、自分の子どもを水戸で育てたいと思ってもらえるようにする。 また、子育て世帯Uターン移住者向け住宅取得制度を創設し、制度の利用を申請した対象者に対して補助金を交付する。
13	プロスポーツチームと協力した、英語教育モデル校の指定	プロスポーツチームと連携し、チームに所属する外国人選手に、体育の授業や放課後学級に来てもらうカリキュラムを作成する。体を動かしながら英語を学ぶことで生きた英語を身につける。 また、英語の授業では、水戸市における英語教育方法を継続し、英語の授業でインプットされた知識をアウトプットするための場づくりを行う。
14	大学との連携による、つまずき補助プログラムの作成及びタブレットへの配信	1 教育委員会:学習の中でつまずきやすいところの洗い出し 2 大学(教育学部):つまずきやすいポイントへの教材動画の作成 3 小中学生:つまずきに応じてタブレットで教材動画を視聴し家庭学習の補助とする。 4 効果を大学へフィードバック
15	放課後学級への高校生ボランティアによる学習支援サポーターの配置	高校生ボランティアが、放課後学級で宿題の補助等学習支援を行えるよう、ボランティア受入れの仕組みを作る。 小学生と接する経験を身近にすることにより、教員への興味・関心の高まり(就業希望増)にもつなげる。
16	仮想空間を活用した快適な教育環境構築事業	学校に準ずる教育環境を仮想空間に構築することにより、特に、無気力・不安が原因で学校に通えない子どもに対して、学習機会の提供や社会的自立に向けた支援を行う。
(2)安全・安心を実感できるまちづくりの視点		
(2)-①福祉の充実		
17	Wheelogを活用したバリアフリーマップの作成	総務省が官民協働サービスとして整備したアプリである「Wheelog」を全面的に活用し、水戸市内におけるバリアフリー情報を一元的に可視化し、市民の利用促進を図る。
(2)-②健康づくり・医療の充実		
18	水戸市健康情報サイト(仮称)の構築	1 健康診断情報のデジタル化 2 健康改善のための情報発信の一元化 ・健康食や家でできる運動をyoutube等で紹介 ・住んでいる地区ごとに健康に関する情報発信(飲食店・施設・散歩コース等) ・水戸市でできる市民参加型の健康づくりをメニュー化し、実践に応じて健康マイレージを付与 など
19	産まれる・看取る・みと	各種健康管理に関するツールが一元化できるアプリを作成し、市民に活用してもらう。 蓄積データの活用については、必要な検診やワクチン接種を受けていない人のチェックをすることにより、虐待等の早期発見・予防につなげる。また、ビッグデータとして分析し、利用者へのフィードバックを図る(例えば週に〇〇分運動している人は血圧が安定している傾向にあるなど)。

### 3 庁内における政策提案 (1) 総合計画策定ワーキンググループ

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
20	水戸市オンラインドクター	オンライン・AI診療を導入することにより、患者の利便性の向上を図るとともに、診療時間の延長など、休日夜間診療体制の充実を図る。 ※患者情報と処方箋は24時間営業ドラッグストアへデータ転送し、処方薬のお渡しについては、ドラッグストアでの受取り又は配達(ウーバードラッグorドローン配達)とする。
(2)ー③防災・減災対策の推進		
21	子どもだけでも避難できる安心な経路整備	電柱、道路、建物等に避難所(学校、市民センター)への道のりがわかるようなマーク(キャラクター等)や矢印等を整備する。子どもたちが集まるような児童公園へ避難所までの道のりを記載した看板を設置する。 また、授業を通して、自分たちで通学路の危険箇所を記したマップを作成し、そのマップをヘルメットや帽子へ収納しておくことで避難時に確認できるようにする。
22	水戸市安心・安全見守り隊による子どもや高齢者の見守りのための定置及び移動カメラ設置事業とみとちゃんパトロールマイレージ事業	水戸市安心・安全見守り隊参加団体に対し、ビーコンタグを検知する見守りカメラの設置協力を求めるとともに、見守りカメラの映像からAIによるデータ分析を行い、不審な行動等を検知した地点の重点的な見守り強化を図る。また、参加団体の車両にカメラを設置し、移動する車両による見守りも行う。 なお、取組の推進に当たっては、パトロールの見守り活動参加希望者を増やすためのインセンティブとなる、みとちゃんパトロールマイレージを創設する。
23	DXによる防災力強化プロジェクト	ドローンの活用を推進し、平常時は危険箇所の確認や点検のほか、撮影した映像をAIで解析し、必要に応じ予防措置を講じる。また、災害時は災害発生箇所の被害状況の調査のほか、安全に避難できる経路を特定する。 あわせて、ドローンで撮影した映像を基に、VRコンテンツを制作・公開し、リアルな体験で印象に残りやすい防災訓練を実施するなど、防災意識の啓発を図る。
(2)ー④日常を支える社会資本の整備		
24	多世代対応型公園へのリノベーション事業	子育て世代が望む公園の在り方についてアンケートを取りながら、幼児対応遊具(視覚・触覚・聴覚など五感をフル活用する遊具)の増設を図る。 また、ソフト事業として、公園での絵本の読み聞かせ・販売のほか、青空読書の開催、公園への本の配置を行う。
25	道路管理アプリの開発及び活用	(仮称)道路管理アプリの導入 ・補修箇所発見者が当該箇所をスマホで撮影し、アプリに送信する。 ・送信された写真が地図上に表示される。 ・所管課は補修箇所を確認し、補修を行う。 ・補修が完了した箇所は地図から削除する。
26	インフラ設備情報のデジタル化・一元化事業	都市計画、上下水道、ガス、電気等のインフラ設備情報のデジタル化・一元管理を国から求められている中、工事業者にはいつでもどこでも閲覧してもらえるよう、役所のネット環境の整備、インフラ設備情報のデータ化等を推進する。
27	上下水道局 AIによる自動応答チャットボット	市民からの行政手続きなどに関する質問に、AIが自動応答する「チャットボット」サービスを導入する。 また、チャットボットの質問に答えるだけで申請書等を自動作成する機能も付加する。
(2)ー⑤地球温暖化対策、循環型社会に向けた取組の推進		
28	児童・生徒家庭におけるゼロカーボンの取組の推進	市内の小中学生のタブレットに、ゼロカーボンに向けた日々の取組状況を入力(チェック)するアプリを導入する。取組状況を可視化し、各家庭におけるゼロカーボンに向けた取組の意識啓発を図る。 また、各校で優秀事例への表彰等を行い、児童・生徒のモチベーションを高める。

### 3 庁内における政策提案 (1) 総合計画策定ワーキンググループ

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
29	AI千波湖 ※は2匹の白鳥が向かい合っているイメージ図	センサーでの自動観測, SNS等に投稿された写真を活用したAI自動判定により千波湖の水質評価を行い, 収集したデータについては, 国や県に提出し, 霞が浦導水事業など水質浄化に向けた取組に生かしてもらおう。 また, スワン号を遠隔もしくは自動で動かしてアオコやごみを回収するほか, 白鳥にマイクロチップを取付してマッピングし, 動物が住みやすい環境づくりを推進していく。
(2)ー⑥市民の多様な活動の推進		
30	ボランティア活動の推進	町内会や子ども会の要望を気軽に募集できるサイト・アプリをつくる。 サイト・アプリでは, ボランティア活動実績や利用者の声を掲載するほか, 発信側の要望と受手側の要望をマッチングする仕組みを構築する
(3)経済が発展するまちづくりの視点		
(3)ー①多様な働く場の創出		
31	デジタル活用による農地環境の見える化・作業の効率化	農地環境の可視化として, 遊休農地, 売買・賃貸可能な農地の公開デジタルマップ化, オープン化を行う。 また, 農作業へのデジタル導入(身体的に難しい労働作業のロボティクス化)を促進する。ロボットの代替による作業の効率化により, 農業の副業化を容易にし, 仕事をしながらでも農業に従事できるライフスタイルを実現する。
(3)ー②まちなかの活性化		
32	中心市街地に遊び場作っちゃおうぜ!	アスレチック, 飲食店などを揃えた, 全天候型の子ども遊戯施設をまちなかに作る。
(3)ー③水戸ならではの観光振興		
33	真の納豆愛を取りもどせプロジェクト (mito-natto-omoshiroine)	以下の取組により, 納豆を通じたシビックプライドの醸成, 納豆のブランドイメージの向上を図る。 ・観光課に納豆係を新設する。 ・水戸の中心で納豆愛を叫ぶコンテスト, 納豆食べ比べ給食, 納豆に関する川柳・絵画・作文コンクールを実施する。 ・ロボッツやホーリーホックのチームコンセプトに「納豆」にちなんだキーワードを入れこんでもらう。 ・法人市民税の減免により, 納豆産業の振興を図る。
(3)ー④歴史, 芸術・文化を生かした魅力の向上		
34	水戸市民会館わくわく子どもパッケージ	以下のとおり, 年齢に応じた子供向けイベントを開催する。 ・0～5歳児(未就学児) 子ども向け番組の誘致 ・小学生(低学年) 音楽・演劇鑑賞の開催 ・小学生(高学年) 科学・サイエンス・歴史に関する講演 ・中学生 プレゼン大会(発表体験)
(3)ー⑤バランスのとれたコンパクトな都市構造の構築		
35	子育て世帯のための空き家活用補助制度	子育て世帯に対する支援として, 空き家リフォーム費用の補助を充実させるほか, 子育て支援施設等の改装に対する補助を行う。 なお, 業者による施工に限らず, DIYの材料費を含めて補助対象とする。
36	空き家情報プラットフォーム「夢マップ」公開事業	空き地・空き家宣言の募集(市で管理はしない)をし, 市で公開する地図データ「夢マップ」に位置情報を落とし込む。 検索者は落とし込まれたものをクリックすることで対象物件の画像や簡単な情報を閲覧し, 購入希望する場合はワンクリックで市が委託する仲介業者を介して空き地・空き家宣言を行った者と接触できるようにする。



### 3 庁内における政策提案 (1) 総合計画策定ワーキンググループ

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
(4)三つのまちづくりの基軸となる取組		
(4)－①市民と行政との協働の推進		
37	子どもによるまちづくりサポート事業	<p>子どもを中心としたまちづくり団体が考えた農業施策に対し, 補助金等の交付を行うなど, 子どもによるまちづくりの実践をサポートする。</p> <p>(具体的活動例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験と収穫祭の開催</li> <li>・収穫野菜を使った商品の開発, 中心市街地の飲食店等での販売</li> <li>・栽培した花を商店街の街路等に植栽, お店に設置</li> </ul>
(4)－②SDGsの実現に向けた取組の推進		
38	人事DX事業 第1弾 年末調整Web申告システムの導入 第2弾 勤怠管理等システムの導入	<p>年末調整Web申告システム, 勤怠管理等システムを導入することにより, 人事課や各部署(庶務担当者等)における事務の効率化やミス軽減を図るとともに, 勤務時間縮減・業務ペーパーレス化による経費の削減につなげていく。</p>
39	窓口予約システムの導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来庁日時の予約機能(待ち時間の縮減, 混雑や密状態の緩和)</li> <li>・手続き内容の選択・入力機能(必要項目の選択・入力による申請書等のペーパーレス化, 手続き時間の縮減)</li> <li>・必要書類の案内・通知機能(手続き不備の軽減, 再来庁の防止)</li> <li>・事前質問機能(手続き時間の縮減, 手続き不備の軽減・混雑や密状態の緩和)</li> </ul>

### 3 庁内における政策提案 (2) みと移住促進プロジェクトチーム

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
(1)子育てしやすいまちづくりの視点		
(1)ー①子ども・子育て支援の充実		
1	職住近接助成事業	<p>子育て世帯に対する企業の福利厚生制度の充実を促し、子育てしながら働きやすい環境づくりを行うとともに、水戸の特色の一つであるまちなか暮らしの魅力を周知する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の2km圏内に引っ越した子育て世帯を対象として引越費用補助等を実施した企業に対して、補助金を支払う。</li> <li>・補助の対象となる世帯のうち、自宅付近の保育所等への入所を希望する世帯については、入所審査における加点を行う。</li> <li>・補助の交付を受けた企業を市HP等でPRするほか、インセンティブの付与を検討する。</li> </ul>
2	デジタル地域情報・交流プラットフォーム「MEET」(水戸市ネット市民センター)運営事業	<p>子育て世帯の孤立を防ぐ手段として、「どの地区の市民センターにも属さない市民センター」をコンセプトとした新たなネット市民センター(市民向けSNS)を開設し、子育て世帯をはじめとする市民が気軽に地域コミュニティを形成する一助とする。またコンテンツをWEBで公開することにより、移住検討者も情報を得ることができる。</p> <p>(各種コンテンツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市による地域情報発信コンテンツ</li> <li>・地域住民による地域情報発信コンテンツ</li> <li>・市民交流コンテンツ</li> <li>・ネット市民センターイベント</li> <li>・グループトーク機能</li> </ul>
3	子育て世帯応援AIバス運行事業	<p>子育て世帯が他の乗客を気にすることなく、気軽にバスを利用することができるよう、子育て世帯専用のバスを運行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LINEアプリ等を活用し、予約をはじめとする手続きを行う。</li> <li>・活用するアプリには、バス利用に関する機能に加え、子育て支援アプリと連動することで、子育て支援策の強化とともに、公共交通の利用促進にもつなげる。</li> <li>・バスの運行ルートや乗降場所等を最適化するため、デジタル技術を活用したAI運行を実施する。</li> </ul>

### 3 庁内における政策提案 (3) 職員提案

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
(1)子育てしやすいまちづくりの視点		
(1)-①子ども・子育て支援の充実		
1	子育て支援の所得制限撤廃	子育て支援制度の所得制限を受けている世帯について、すべて市で助成する。
2	子育て世帯の経済的負担の軽減	・0～2歳児の保育所利用者負担金の無償化又は減額 ・小中学校の給食費無償化又は減額 ・小中学校への入学時のお祝い金の設定
3	市立小中学校の学校給食費の無償化	市立小中学校の学校給食費の無償化により子どもを持つ世帯が安心して学校に通える環境を整備するとともに、行政の事務負担軽減を図る。
4	私立学校に通う児童・生徒への支援	本市在住の子どもが、経済的な理由に関わらず、自由に市内の学校に通うことができるよう、私立学校に通う児童・生徒に対し、市独自の支援制度を設ける。
5	子育て世帯への家事代行利用支援	18歳以下の子どもがいる家庭に所得制限なしで家事代行クーポン(1回2,000～3,000円分×10枚など)を支給。代行業者を各自選択して利用できるようにする。
6	移住子育て世帯所得補償制度	移住子育て世帯に対して助成金を支出し、所得補償を行う。
7	子育て世帯自由な働き方推進事業	子育て共働き世帯の日常に自由を増やすため、補助金制度の導入を検討する。通勤に要する時間の削減・フレキシブルな勤務形態等により、可処分な時間を増やすことで日々の負担軽減の効果を期待する。
8	子育て世帯向けテレワーク推進事業	子育て世帯向けテレワークの推進に向け、以下の2つの制度を連動させて運用する。 ・水戸市子育て世帯応援企業認定制度(1年目～) ・子育て世帯向けテレワーク環境導入補助金(2年目～)
9	子育て世帯有資格者労働支援制度	市内の事業者を対象に、子育てしやすい労働環境を整えている企業の活動を支援する。 ・子育て休業等支援 ・子育てからの労働復帰支援
10	ホームシェアリング×カーシェアリング	水戸市が補助金を企業に出し、企業側が集合住宅及びファミリーカーを調達する。企業側は被用者(移住者限定)に対し、福利厚生制度として安価で貸し出す。
11	不妊治療を受ける世帯の経済的負担の軽減	不妊治療に対する市独自の助成金の更なる拡充 (一律の増額ではなくとも制度改正前と比べて負担増となっている世帯への配慮は必要)
12	子どもを連れて遊べる環境の整備	既存の市内公共施設に大型遊具(可能であれば室内キッズゾーン)を設置し、市内外の子育て世帯が楽しく水戸市内を回遊できるようにする。公共施設それぞれの機能に+αで「遊び場」という価値を付けることで水戸市の魅力向上につながる。

### 3 庁内における政策提案 (3) 職員提案

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
13	学童期に向けた市内公共施設等の遊び場づくりの充実及び情報提供	○長時間遊んで過ごせる空間の整備(植物公園など) ・遊具・アクティビティ・簡易テントが置ける空間の整備 ・摘み取りや加工体験ができるハーブ園の整備 ○子どもとの休日の過ごし方(おでかけ)のモデルケース提案 ○遊び場の検索システムの整備
14	近隣公園等における駐車場の整備	十分な広さがある, 遊具やトイレ等が整備されている, 市域にバランスよく配置されている等の子育て世帯のニーズを満たす要素を持つ近隣公園を利用しやすい施設とするため2~3台程度の駐車場を整備する。また, 街区公園のうち, 規模の大きい公園についても同様に駐車場を整備する。
15	中心市街地における居場所づくり	中心市街地の利活用可能な公共空間等(水戸芸術館と市民会館の間の道路(幹線市道4号線)等)を歩行者専用道路とし, その場所で「みちあそび」(みちを単純な移動手段としてだけではなく, 様々な人々の居場所としてもらうために, みちに人工芝, ハンモック, ベンチなどを設置したり, こどもが遊べる遊具を設置する)を中心とした催しを, NPO団体の主催のもと, 定期的実施する。
16	子育て世帯情報格差ゼロ事業	水戸市在住の子育て世代に対し, 情報を分かりやすく確実に提供するため, 水戸市公式LINEの内容拡充を行う。
17	住民向けのアプリ開発事業	子育て世代を対象に, 住民自身が子育てに関する情報を入手できる媒体として, アプリを開発する。
18	子どもが自ら相談できる機会の創出	学校のタブレット端末を活用したSNS相談アプリの利用
19	子育て支援サービスの充実	市民センターを活用した休日における親子教室等の実施
20	めだか教室シニター支援事業	各地域にめだか教室を利用したことがあるシニターを配置し, 育児の先輩からの情報提供などを行う場を設け, 「縦のつながり」を強化する。
21	「(仮称)みんなのばあば制度」の創設	元保育士や特別支援教育支援員, 放課後学級支援など日常的にこどもたちと関わる人が多い人たちに有償ベビーシッターとしても登録してもらい, 市が認定・PRを行う。
22	わんぱーくでの夜間預かりの実施	市民会館, 水戸市内の飲食店利用者向けに, わんぱーくの夜間預かりサービス(18時から22時位までを想定)を実施
23	男性の育児参加意識の向上	母子手帳アプリを導入し, 男性の育児意識の向上を図る。
24	ベビーカーonバス利用促進補助事業	路線バスでのベビーカー利用促進を図るため, 市民に対してバスでのベビーカー利用可能であることや, ベビーカーマークの周知と理解を進める事業を行う。また, 子育て世代を対象とした, ベビーカーでバスに乗車する体験イベントを実施する。
25	妊婦, 子育て世帯の公共交通機関の利用支援	妊婦・ベビーカー利用者へ3,000円チャージした交通ICカード, 手助けストラップを交付
26	子育て世帯ノーマイカー買い物補助事業	市内の事業者に対し, 子育て世帯の公共交通を利用した買い物を推進するため, 利用者に対し割引サービスを行った事業者に対して, 割引した相当額を補助する。公共交通を利用した際に, 希望する利用者に「公共交通利用者カード」を配布する。このカードを買い物の会計時に提示すれば, 事業者は割引サービスを提供する。
27	まずバスに乗ってみてもらう	水戸漫遊1日フリーきっぷの利用を希望する市内の小学生以下の市民に, 大人1人+子供1人分を無料で配布することで, お試し乗車を促す。利用者にアンケート調査を行い, 改善点などを探る。

### 3 庁内における政策提案 (3) 職員提案

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
28	智学館中等教育学校の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市で土地・建物を買取り, 市立学校として運営する。</li> <li>・茨城県と相談し, 桜ノ牧付属中とする。</li> <li>・フィルムコミッション等見せる施設として利用できることから, 市として管理費を支払い, イベント等に活用していく。</li> </ul>
29	通学時の子どもの安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>○通学路みまもりプロジェクト <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生の子を持つ子育て世代の職員有志でパトロールを行う。あわせて, 保護者目線での通学路の危険箇所を把握していく。</li> <li>・PTAの希望者や地域の方には散歩がてら参加してもらう。</li> </ul> </li> <li>○通学路安全マップ作成 <ul style="list-style-type: none"> <li>水戸市通学路交通安全プログラムや通学路の見守り活動で確認された通学路上の危険な箇所などをまとめた各学区の安全マップを作成する。</li> </ul> </li> </ul>
(1)ー②水戸ならではの魅力ある教育の推進		
30	水戸市内の中等教育学校への国際バカロレア(IB)導入	水戸市にある中等教育学校に, 国際バカロレア(IB)を導入する。また, 国際バカロレア(IB)は日本の入試制度とは相性が良くないので, 海外の大学への進学をサポートする体制も一緒に整えていく必要がある。
31	水戸版キッズニア「水戸こども商店街」	こどもたちが様々な仕事を体験する事によって, こども自身の将来への夢を育み, 地元を知るきっかけを作るイベントを実施する。商店街の空き店舗や市民会館を活用し, ミトリオ周辺の商店街や企業の協力をつとめ, 空き店舗等に子どもが販売できそうな商品(魚, パン, 飲み物など)を集めてもらう。
32	質の高い教育の提供に向けた教員の働き方の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務作業の分担 <ul style="list-style-type: none"> <li>市立学校で事務作業専門の職員を採用する。</li> </ul> </li> <li>・教員配置の工夫 <ul style="list-style-type: none"> <li>教科分担制を導入する。</li> </ul> </li> <li>・労働時間の徹底管理 <ul style="list-style-type: none"> <li>アプリなどを利用した労働時間の管理等による教員の負担の削減の可視化</li> </ul> </li> </ul>
(2)安全・安心を実感できるまちづくりの視点		
(2)ー①福祉の充実		
33	プロスポーツを通じた高齢者福祉施策の充実	プロスポーツを通じた高齢者の健やかな暮らしの実現, 認知症施策の充実(介護施設の利用者等がプロスポーツ観戦を通じて心身の機能回復につなげていく。)
34	高齢者の買い物支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者と協力してデマンドタクシー事業を実施する。</li> <li>・NPO法人などに運営をお願いし自家用車を活用した利用者負担の少ない事業を補助金を出すなどして支援する。</li> <li>・自家用車の乗り合いを推進しドライバーとなる方に燃料費の補助や安全講習などの支援を行う。</li> <li>・移動販売事業者に補助金をだして買い物の空白地帯をなくす。</li> </ul>
(2)ー②健康づくり・医療の充実		
35	動物愛護の取り組み強化	動物愛護センターの情報発信の強化, 保護や譲渡活動の強化等の10項目からなる「人もペットもみんなおいでおいでプロジェクト」の実施
36	医療, 保健, 健康等の分野における官民連携による施策の推進	行政が行う公的な医療・介護・健康増進の取組に加え, 事業者等が実施するサービスの充実, さらにこれらの連携強化によって, 病気の予防や早期診断・早期治療, 市民の健康寿命の延伸, 産業の創出を図る。
37	みと健康プロジェクトの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命保険会社等との連携による流行を捉えた健康づくりイベントの実施</li> <li>・健康づくりアプリの作成</li> <li>・事業者との連携による健康経営に向けた取組の推進</li> </ul>



### 3 庁内における政策提案 (3) 職員提案

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
38	千波湖の更なる活用	これまで本市にはなかった, 動力を使わないウォータースポーツ(カヌー, ウィンドサーフィンなど)のためのアクティビティエリアを開発する。
39	デジタルデトックスイベント等の実施	デジタルデトックスとして本市の豊かな自然環境(千波湖, 植物公園, セツ洞公園など)を利用したイベント(ヨガ, ウォーキングなど)の開催。また, 市民センターでの講座や, 小中高大学生を対象とした出前講座を開催する。
(2)ー③防災・減災対策の推進		
40	地域防災計画に基づいた各部署の災害発生後の行動体制確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災計画に基づき, 各部署において防災行動計画(タイムライン)を作成しておく。</li> <li>・ハード部門(特に建設部等)においては, 災害対策本部のもと, 迅速な災害対応を可能とするため, 実動を統率するプロフェッショナルチーム体制を構築しておく。</li> <li>・東日本大震災や令和元年台風19号における災害復旧の実績を資料として情報共有し, 次の災害復旧(査定も含む)に活かせるように継承していく。</li> <li>・上記や, 災害手帳等の情報について, 部内・課内で定期的に打合せや勉強会を設け, 種別ごとの災害発生時における各職員の行動計画を浸透させる。</li> <li>・市民に対し, 災害予防のみならず, 災害発生後をシミュレーションした組織体制の強化もアピールしていく。</li> </ul>
41	誰にとっても分かりやすいハザードマップの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多言語, やさしい日本語表記のハザードマップを作成する。</li> <li>・子ども向けに振り仮名や平仮名を使用したハザードマップを作成する。</li> </ul>
42	災害時(停電時等)を想定した電力の確保策の検討	防災型地域エネルギー事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災拠点等への大型蓄電池の設置やEV充電拠点の整備</li> <li>・EVバスの導入促進</li> </ul>
43	市民が意見を交わし, 未来の水戸市の姿を計画する機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地強靱化事業</li> <li>・経済強靱化事業</li> <li>・地域資源強靱化事業の実施</li> </ul>
44	雨水管きよの全容把握等による内水被害対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の雨水管きよの全容把握と流下機能計算の見直し</li> <li>・既存管きよを考慮した雨水の下水道事業計画の見直し</li> </ul>
(2)ー④日常を支える社会資本の整備		
45	道路行政の強化に向けた取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規の道路整備から, 既存道路の維持管理・補修・改修整備への方針のシフト</li> <li>・市民が道路通行の支障箇所を簡単に市に伝えらる道路の不具合・損傷の通報サービスの提供</li> <li>・道路台帳の占用物に係る情報等の整理</li> </ul>
46	中心市街地における回遊性の向上	まちなか移動を容易にする新たな公共交通としてのグリーンスローモビリティの導入
(2)ー⑤地球温暖化対策, 循環型社会に向けた取組の推進		
47	ゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みの促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規着工住宅への太陽光パネル発電システムの設置義務化</li> <li>・既存住宅への太陽光パネル及び蓄電システム設置に係る補助制度の創設</li> <li>・市職員の市役所本庁舎への自家用車による出勤を原則禁止</li> </ul>

### 3 庁内における政策提案 (3) 職員提案

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
(2)ー⑥市民の多様な活動の推進		
48	移住者向け市民団体活動広報事業	市民団体が作成した自身の団体を紹介する動画(10分程度)を水戸市移住特設サイトに掲載する。 掲載する団体はこみっと広場とは違い、移住者を積極的に受け入れている団体を掲載する。 併せて、転入手続きの際に水戸市移住特設サイトを紹介するチラシを配布する。
49	国際交流の充実に向けた取組の推進	・現在の姉妹都市をもっとアピールする。 姉妹都市に関する国際交流イベントを開催する。 ・新たに観光に強い都市の姉妹都市を作る 観光に強い国際都市との姉妹都市提携することで、水戸市の歴史等を活かした観光客の増加の手法を学ぶ。
(3)経済が発展するまちづくりの視点		
(3)ー①多様な働く場の創出		
50	移住者新規就農補助事業	水戸市へ移住して就農する場合に、後継者がいない農地や空き家となってしまった住宅を格安で提供し、取得費用について月5万円を補助する。 就農に必要なノウハウ(師匠の紹介や鯉淵学園・農業実践学園での受講)や中古農機具、販路も提供するなど、軌道に乗るまでサポートする。
51	農業の担い手確保に向けた農業体験の推進	・様々な分野と連携した「農業体験」の実施 「農福連携」の取り組みをしている自治体がある。引きこもりや高齢者など社会との接点が薄い人達が、農業を本格的に体験する。繁忙期の担い手不足などになるばかりでなく、収入を得ることで社会とのつながりを持ち、自立につながる効果もある。また、教育分野と連携し、職業体験を実施することも考えられる。
52	新規就農希望者や農業系大学の卒業生をターゲットとした、後継ぎのいない農家とのマッチング	・民間企業と協力したマッチング会の開催, SNSでのマッチング ・就農マッチングイベントの開催
53	農業経営体の法人化と若い世代の就農促進	農業経営体に対して、法人化を促進し、若い世代が就職活動の一環として農業を選択しやすくなるような環境整備を行う。
54	農業の大規模な集約化	・大規模ハウス・機械導入の支援 国産農畜産物供給力強靱化事業や、産地生産基盤パワーアップ事業、及び今後発表される国の同様の事業に、市の補助を上乗せすることにより、大規模なハウス建設や、大規模な機会の導入を促していく。
55	新しい地域活性化策(カーボンファームと地域支援型農業の普及)	・主に移住者・新規就農者を対象として、新しい農業の取り組みであるカーボンファーム(環境再生型農業)に向けた研修、農地の確保を支援する。 ・カーボンファームをブランドとした小規模営農者の組織化により、地域(コミュニティ)支援型農業の普及を支援する。
56	梅の販売方法の工夫／新たな農作物の産地化	①梅の研究 ・まずは、梅を食べるメリットを探るため、地域農業大学と連携し、梅の成分分析を実施し、梅の健康PRや商品価値の上がるポイントを調査する。 ②新規就農者には近隣市町村でも多く栽培しているイチゴ等を本市でも栽培の後押しをしていき、いちご狩りなどの体験型の農業を増やしていく。

### 3 庁内における政策提案 (3) 職員提案

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
57	若者, ファミリー層向けの施設整備, 誘致	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物公園のファミリー向け・学生応援施設化</li> <li>・植物公園近隣の賑わい施設の誘致</li> <li>・空き店舗利活用審議会の設置</li> </ul>
(3)ー②まちなかの活性化		
58	市公共施設再整備時のまちなかへの建て替えの原則化	<p>今後, 市施設を建て替える場合については, 「中心市街地(又は都市核)内への建て替えを原則とする方針」の決定を行う。            ※原則であるので, 地域的なバランスで配置している施設等例外もありうる。</p>
59	「心地よさ」を重視した歩きたくなるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心市街地への自家用車乗り入れ規制の社会実験を実施する。</li> <li>・周辺の景観を含めたまちづくりについて, 「心地よさ」「環境保護」にこだわったまちづくりをプロポーザル方式で実施する。</li> </ul>
60	常磐線の高速化	<p>県や県北・県央の市町村とも連携しながら国・JRに働きかけを行い, 常磐線の高速化のための軌道改修・踏切除去等の働きかけを行う。</p>
61	まちなか交通体系の充実	<p>まちなかに住む人・訪れる人が利用しやすい重層的な交通(移動)体系を構築する。</p>
62	自動車に頼らない移動手段の利用促進	<p>電動キックボードLoopの導入や貸し出し自転車の増設(環境面と市民の健康面に良い影響を及ぼすだけでなく, 車では見つけられない水戸市の良い点を, 市民が新たに発見するきっかけになる。)</p>
63	中心市街地への大学の誘致	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)水戸芸術大学の誘致・創設</li> <li>・医大(医学部)やIT系の大学の誘致</li> <li>・マイムビル等への大学サテライト校舎の誘致</li> </ul>
64	大規模な集客を見込める店舗の招致	<p>水戸駅近くのマイムビルまたはOPAに, 茨城県初のラウンドワン(スポッチャ)を招致してもらえよう, 家屋所有者に働きかける。</p>
65	若い世代のまちなかへの誘導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅ビルまたは駅周辺に大型の商業施設を誘致する。</li> <li>・駅前シャッター街に手を入れ, MitoriOまで徒歩でも楽しめるようなルートづくりをする。</li> <li>・水戸駅構内に水戸市内の様々な観光名所への行き方を記した電子掲示板や無料パンフレットを常設する。水戸駅に遊びに来る, 車を持たない若者にも分かりやすい案内を行う。</li> </ul>
66	新たな商業施設誘致及び商業地域の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誘致したい商業施設や企業について, 市民アンケートを行う。</li> <li>・大人数が集まるようなイベントを催す際, 近隣住民からの苦情は避けられないため, 店舗のみを密集させたような商業地域で水戸市を活性化させる。</li> </ul>
67	市営娯楽施設の設置	<p>市営の娯楽施設設置(ナイトクラブや風俗店のような施設を市が経営する。市営の娯楽施設は珍しさがあり他の地域から観光客を呼び込むきっかけとなる。)</p>
68	学生向けフリースペースの設置	<p>中心市街地の空き店舗を改装し, 学生が自由に立ち寄って勉強や打合せができるスペースを設ける。</p>



### 3 庁内における政策提案 (3) 職員提案

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
69	新市民会館を活用したまちなかにぎわいづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)おもてなし飲食店の登録</li> <li>・イベント情報の共有</li> <li>・有名アーティスト等の公演に合わせた臨時営業, 営業時間の延長, 共同企画・イベントの実施など, おもてなし気運の醸成</li> </ul>
70	MitoriO地区におけるエリアマネジメントの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3施設(指定管理者含む)・地元商店街・コミュニティとデザイン等の専門家(アドバイザー)からなるまちづくり協議会を立ち上げる。これにより情報や課題を共有し, 協働ながら課題の解決を図り, エリアマネジメントを志向する。</li> <li>・地元とも協働したイベント開催や魅力の発信, エリアの統一的なカラーやイメージ等を創り出し, 3施設のシナジーを高めつつ, エリアとして魅力の向上を図る。</li> </ul>
71	中心市街地におけるイベント実施によるにぎわいの創出	国道50号での梅酒・地酒の試飲イベントを実施する。
72	インバウンドへの対応強化	商店街等, 希望する事業主に外国語の簡単な商売フレーズ集を配り, それを使えば海外の観光客とも最低限の商売のやりとりができるようにする。
(3)ー③水戸ならではの観光振興		
73	観光案内所の拡充	水戸の玄関口にある観光案内所を水戸の顔となるような観光案内所とするとともに, 各種予約機能等も充実させることで, 市内宿泊・飲食産業への誘導を図る拠点とする。
74	那珂川堤防上のサイクリングロードの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桜川・那珂川の既存の堤防上(部分的に堤防内や堤防外の土地・道路等も含む。)を自転車通行が可能な通路を御前山まで一貫して開設する。</li> <li>・また, あわせて市民のサイクリング人口を増やす取組みも推進することで, 市民の健康増進につなげることで, 増大する公的医療保険の増大の抑制にもつなげる。</li> </ul>
75	本市の自然を活かしたアウトドア事業の推進	千波湖(四季の原広場, ふれあい広場)や森林公園にキャンプ場やグランピング施設を整備する。
76	郊外地区の有効活用と観光振興	自然豊かな地域へのグランピング施設の整備又は誘致の検討
77	千波湖の観光資源としての活用	カヤックや水上スポーツとして近年注目されているSUP(スタンドアップパドルボード)を千波湖で体験できるよう整備する。
78	水戸を舞台としたショートストーリーコンテスト等の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水戸市内のスポットを舞台にした「ショートストーリーコンテスト」及び「ショートフィルムコンテスト」を実施する。</li> <li>・最優秀賞等を市内外で上映する。</li> <li>・舞台となった場所の「〇〇の聖地」などスポット化の推進及び観光ツアーなどを企画し, 認知度及び回遊性の向上に繋げていく。</li> </ul>
79	サブカルチャーのまちとしての観光振興	コミックマーケットをアダストリアみとアリーナで開催し, あわせて, 市内各所でコスプレ撮影会を開催するなど, 市内全域でイベントを開催し, 水戸をサブカルチャーのまちとして観光客の増加を図る。

### 3 庁内における政策提案 (3) 職員提案

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
80	水戸借楽園花火大会における有料栈敷席の拡大	水戸市民会館や青柳体育館, 京成百貨店本館駐車場屋上などに有料の栈敷席を設けるとともに, 食事を提供することで, 水戸の郷土料理を味わう機会や地元飲食店との連携に寄与し, 顧客単価を上げることで, イベント全体の収益を向上させる。
81	水戸の観光スポットの認知度向上	サンリオキャラクターとみとちゃんをふるさと大使に任命し, 観光名所や町のおすすめの場所等でスタンプラリーを期間限定で開催し, 先着順にサンリオキャラクターとみとちゃんのノベルティグッズを数量限定でプレゼントする。(数量限定を期間でプレゼントを異なるものにする。) またおすすめスポットの写真コンテストを行い, 応募された写真を市役所や駅などに展示スペースを設ける。
82	黄門まつり参加者・来訪者への思い出の品づくり	毎年度, 市民からデザインを公募し, 水戸黄門まつりオフィシャルTシャツを作成する。
83	納豆の消費拡大	・飲食店で一品, 納豆料理のメニュー考案し, 店に置いてもらう。 ・一品につき, いくらかを補助
84	新たな水戸の特産品のPR	・名産品として, 「水戸の麺」をPRする。 ・納豆を使用した料理「ナビラ(なっとうピザライス)」を発祥の地・埼玉県本庄市の協力のもとPRする。
85	インバウンドや個人旅行者を対象とした観光振興	・外国人や個人をターゲットとした「文化体験都市・水戸」のPR ・飲食店の外国語メニュー作成費用の支援
86	イベント情報発信力の向上	イベント情報集約サイトのイベント情報ではなく, サイトのトップページに地図を埋め込み, その地図上で, イベント場所に印をつける。印にカーソルを合わせるとイベント情報が表示されるようにする。
87	宿泊税の導入	法的外目的税として「宿泊税」を賦課し(1泊1人50~100円程度), 観光の振興を図る施策等の原資とする。
(3)ー④歴史, 芸術・文化を生かした魅力の向上		
88	水戸市立博物館魅力向上事業	1980年7月1日開館の水戸市立博物館の建築物老朽化が進行している状況を踏まえ, 令和時代のニーズに応える改修を行い, 立地エリアの価値を向上させる。
89	フィルムコミッションを活用した多様な魅力の創出	ロケ地としての使用が多く, エキストラとして映画やドラマに出演する機会があることをから, 役者として活躍できる人材を輩出する仕組みを事業者とつくり(役者の養成所等), 芸術のまちとしてPRする。
90	プロスポーツチームの活性化支援	・市役所で観戦チケット無料配布や割引販売を行い, 水戸市民に対してまずはスタジアムに足を運んでもらえるようにする。 ・市内にポスターや垂幕などをもっと設置し, 市民が目につけられる機会を増やす。 ・アウェイゲームは新市民会館でパブリックビューイングを行い, 市民がよりスポーツを身近に感じられる状況を作る。
(3)ー⑤バランスのとれたコンパクトな都市構造の構築		
91	適正な居住の誘導	・まちなか居住に関する補助金の拡大 ・市街化調整区域の開発基準の追加

### 3 庁内における政策提案 (3) 職員提案

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
92	空き家対策の推進	空家等特別措置法の権限で、空き家と思われる家を調査し、今後の利活用を調査する。その上で活用を考えていない空き家に対し、活用策をアドバイスする。もし、活用が見込めないにもかかわらず、空き家のまま放置することが懸念される場合は、特定空家とまでは言えない住宅であっても、更地並み課税とするような条例を設立することで、早期の空き家対策を促す。
93	更なる空き家対策の推進	一定の条件を満たしつつ空き家を解体すれば、撤去後も2年間にわたり住宅用地の特例が適用され、土地部分にかかる固定資産税が減免される制度を創設する。
94	水戸駅南北の一体的なまちづくり	水戸駅の連続立体交差事業により、水戸駅を嵩上げし、地上平面部に駅南北を結ぶ幹線道路とバスターミナル、タクシープールを整備する。駅南北を結ぶ幹線道路は、路線バスとタクシーのみ通行可とし、公共交通で移動しやすい環境を整備することで、駅南北の一体的なまちづくりを実現し、都市核の機能強化を図る。
95	公共施設の集約及び公共交通機関の整備	公共施設の集約を行う。例えば、学校の統合し、教員や設備等を集中して配置することにする。同時にバス等公共交通機関の整備を行う。先に述べた学校統合では、離れた地域に住む児童・生徒がいる場合に、送迎のスクールバスを運行する。公共交通圏内で生活に必要な行動が足りるようにする。
96	交通実態調査の実施とデータを活用した施策の検討	人の動きに着目した交通実態調査であるパーソントリップ調査を実施する。また、把握した交通手段・交通量から交通手段別の二酸化炭素排出量を算出し、地球温暖化対策の効果を測定するなど、時代の課題に対応する施策への積極的な活用を図る。
(4)三つのまちづくりの基軸となる取組		
(4)－①市民と行政との協働の推進		
97	地域と学生をつなぐ中間支援	「何か面白いことをしたい」と感じている学生が一回限りではなく、継続的に充実感を得られる主体的な遊び(活動)として、町内会・商店街や地元企業等と協力し、地域の課題解決や活性化を図っていくことを支援する。
98	市内の高校と連携した情報発信プラットフォームづくり	学校や同窓会等と連携し、市内の高校生が卒業する際に水戸市のSNSに登録してもらう。学校や市内の大学生等と連携し、登録してもらったSNSで定期的に情報発信を行う。
99	個人ボランティアによる清掃活動, 美化・緑化活動支援	清掃活動, 美化・緑化活動について、自主参加, 任意参加, 個人参加の緩いボランティア活動を展開する。行政は物品での支援とし、作業用エプロン(MITOオリジナル)の支給, ごみの回収, ごみ袋の提供, 保険の加入で支援する。

### 3 庁内における政策提案 (3) 職員提案

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
100	「水戸市推しンピック」(仮称)の開催	4年(もしくは2年)に一度「水戸市推しンピック」(仮称)を開催し、1位になったモノを市全体で大々的にアピールする。 「あなたが推したい水戸のモノ」(観光地, 食べ物, 店等)を市民から公募。応募されたもの全てをノミネートし、その後、投票で順位を決める。
101	日常的・継続的にオセロに親しめる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人も出場できる市独自のオセロ大会(初級～中級者向け)を実施する。</li> <li>・電柱, 歩道等に詰めオセロを設置し, 信号の待ち時間等でオセロを楽しめるようにする。</li> <li>・小学校, 中学校等の各教室にオセロに関する掲示物(詰めオセロ1問を載せた「今月の詰めオセロ」など)を貼る。</li> <li>・ネックストラップ オセロver.を作成する。</li> </ul>
102	公益的活動に係る副業・兼業許可基準の明確化	意欲ある職員が知識や経験等を生かして課題解決に取り組むことを後押しすることにより, 地域における担い手不足への積極的な対応とともに, 担当業務にとらわれない新たなスキルやノウハウの獲得, ネットワーク力の強化など, 人材育成面での効果を得ることを期待し, 職員が公益的活動に携わる際の副業・兼業許可基準を明確化する。
103	こども・子育て世代向けの市民懇談会の実施	小中学校児童及び保護者向を対象にした, こども・子育て世代市民懇談会を開く。
(4)ー②SDGsの実現に向けた取組の推進		
104	SDGsの達成に向けた取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)地方創生SDGs推進部の創設</li> <li>・自治体専用のSDGs取り組み診断・可視化ツールの導入に向けた検討</li> </ul>
105	食品ロス削減の取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄野菜の販売を主とした定期朝市の開催</li> <li>・上記とともに, 農家への感謝を形にした農人形をからめて, 昔からSDGsの精神が水戸にはあったことをPR</li> </ul>
106	肥料等の価格高騰による農業支援や地産地消へのさらなる取組の推進	地場産品を給食に使用する取組と併せ, 有機栽培の野菜や米の使用を推進する。価格が高騰している化学肥料を使用せず栽培された野菜や米を, 給食用に行政が確実に買い上げることで, 市内農家が安心して栽培できる環境を作ることができる。
107	まちなかで自然を感じる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「植物公園サテライト」と称し, まちなかの各所に植物公園の職員が作成した寄せ植えや植木などを設置する。</li> <li>・オフィス内外に植物を設置するよう希望する企業には花木を提供する。</li> <li>・住みよいまちづくり推進協議会と連携し, 希望する自治会にて花壇や寄せ植え製作講座を実施する。</li> </ul>
(4)ー③デジタル化による便利なまちに向けた取組の推進		
108	メタバースの活用	本市の存在する地形・構造物をメタバース上に構築し, 本市のPRを行う。また, メタバース上で水戸黄門まつりを開催するなど, 仮想空間上で水戸を満喫できるようなイベントを開催する。

### 3 庁内における政策提案 (3) 職員提案

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
109	地域ポイントの導入	<p>地域ポイント(地域通貨)をキャッシュレス決済サービスのPayPayやLINE Payとして、市内のみにおいて利用できるシステムを構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくりを強力に推進するため、健康づくりに資する活動に応じて、市内で利用できるポイントを付与する。</li> <li>・町内会に加入する者が町内会活動に継続して参加することで、市内で利用できるポイントを付与する。</li> <li>・プレミアム商品券のデジタル化</li> </ul>
110	地域電子通貨の導入の検討	金融機関も含めた地域独自の電子通貨の創設
111	いばらき電子申請・届出サービスの対象拡大	「いばらき電子申請・届出サービス」による証明書等の発行を、土木部局にも拡充する。具体的には、建築計画概要書の写しの交付や台帳記載事項証明書といった、“予め内容がわかるもの”を対象とする。
112	行政情報の積極的なWeb公開による利用者の市役所訪問機会の軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図情報の公開及び窓口の電子化</li> <li>・既存のオープンデータの拡充</li> <li>・道路、埋設管工事等における図面データの3次元化と集約・公開の推進</li> </ul>
113	AIチャットボットの導入による問い合わせの自動化	市民からの行政手続きなどに関する質問に対して、AIが自動応答する「チャットボット」サービスを導入する。また、チャットボットの質問に答えるだけで申請書等を自動作成する機能も付加する。
114	AIチャットボットの導入による問い合わせの自動化	<p>電話で相談する前に、相談内容に合致した部署を絞り込むことにより、職員の負担軽減やたらい回しの防止につながると思われる。</p> <p>また、ある程度の疑問や相談に対しては、24時間対応で回答が可能となり、電話での相談件数の削減につながると思われる。</p> <p>TwitterやLINEなどのSNSと連携させることが出来れば、若年層の市民の声を効率的に拾うことも期待できる。</p>
115	新しい市役所窓口(メタバース空間におけるバーチャル市役所の創設)	市役所での申請手続は、デジタル技術(web3)を活用したメタバース空間のバーチャル市役所において、市職員の代わりにAIのアバターが来庁者ごとの申請を支援できる仕組みをつくることを、窓口業務の最終形として目指す。これにより、市民の移動リスクをなくすとともに、市職員の業務の見直しによる適正配置を図る。
116	市民センター来所者への窓口サービスの向上	市民センターにおける窓口対応用タブレットの導入
117	窓口におけるテレビ電話の活用	出張所にテレビ電話できる設備を設置し、本庁舎の相談室などとテレビ電話できるようにする。相談があった場合、担当課に繋ぎ、担当がいてすぐに話が聞ける場合は、対応する。



### 3 庁内における政策提案 (3) 職員提案

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
118	公共トイレのサービス向上 (効率的な清掃による綺麗化等)	公共トイレのドア(男性用トイレの場合は, 入口を含む。)にセンサーを設置し, 利用者の数や利用時間を把握することにより, 清掃が必要な箇所を的確に捉え, 一定の基準(回数等)に達したトイレを清掃する体制をつくる。
119	スマートメーターの導入による事業の効率化	スマートメーターを導入することで, 検針に係るコストを削減できるほか, 漏水等による水量の異常を早期に発見・対処することで, 有収率の向上も図ることができる。また, スマートメーターに「見守り機能」を付け, 使用水量に大きな変化があった場合などに, 別宅に住む家族に使用状況を自動通知することで, 使用者に対する速やかな安否確認が可能となる。
120	水戸市独自のアプリ作成	スマートフォンでワンタップで情報が手に入る「水戸市のスマホアプリ」を作る。
121	デジタルメディアセンターの整備 ~ 次世代の知の拠点となる南部図書館 ~	市民が様々なデジタルデバイスを活用し, 最先端の技術や学びに触れることができる生涯学習の拠点を整備する。
(4)ー④多様性が受容される社会に向けた取組の推進		
122	多様性の尊重に向けた学校制服・持ち物の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制服を学ラン・セーラー服からブレザー型へ変更し, 性差が出にくいユニセックスなデザイン(身体のシルエットが強調されないスラックスをはじめとするジェンダーレス制服)を採用する。</li> <li>・スカート, スラックスのほか, ネクタイやリボン等の組み合わせも自由に選べるようにする。</li> <li>・男女で色分けをしている持ち物を見直す。</li> </ul>
123	障害のある方が安心して働くことのできる職場環境づくり	茨城県の実施するステップアップオフィスの水戸市版を障害福祉課内に室として設置し, 障害のある方を会計年度任用職員として最長3年間(ステップアップの場所であり上限を設定)任用し, 庁内各課から依頼された業務を中心に従事し民間企業等に就職するための経験を積む場を提供していく。当該室においては, カバー・フォローの体制を整備するほか, 民間企業の求人との橋渡しや就活の助言等を行う。
(4)ー⑤広域行政の推進		
124	持続可能で一定の質を保った行政運営の推進	近隣自治体と同等の内容を行っているような業務については, 複数の自治体共同で実施要項等を作成し, 同じ業務運営をする。
125	連携中枢都市圏における路線バスの充実に向けた取組の推進	本市を中心とした, いばらき県央地域連携中枢都市圏全体を見据え, 水戸駅や赤塚駅, そしてイオンショッピングセンターを抱える内原駅と言ったJR駅を路線バス網の拠点とし, さらなる水戸市と近隣市町村の路線バス網の充実を図り, 県央地域の中心都市としての活性化を図る。
126	連携中枢都市圏全体でのスマートシティの推進	圏域全体で, DXを活用したSDGs対応の持続可能な社会の構築を目的とした産・官・学・民を構成員とするコンソーシアムを組織し, 圏域全体を対象としたデータ連携基盤を導入するなど, ICTを活用した技術的な高度化が容易にしやすい環境を整備する。産・官・学・民の連携により, それぞれ独自の文化や歴史, 自然, 環境, 生活, 技術など有する自治体とその利点や特徴を圏域全体で共有するとともに欠点を克服し課題解決にあたる。

### 3 庁内における政策提案 (3) 職員提案

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
(4)ー⑥中核市としての質の高い行政サービスの提供		
127	新しい政策理念の共有(ミッション・ステートメントの導入)	次期総合計画の設計の中にフレームワークとしてのミッション・ステートメント(MV V)の手法を取り入れる。 ミッション(「なぜ」やるのか)・ビジョン(目指すべき姿)・バリュー(大切にすべき価値観)を明確にすることで、事業に関わるすべての者に、本市のまちづくりに対するマインドセットの浸透を図り、事業展開が円滑に推進できるようにする。いわゆる、パーパス経営(目的経営)を実現する。
128	「失敗できるまち＝挑戦できるまち」というイメージのアピール	・「失敗学」教育の推進 ・民間企業のリスタートを支援する制度を充実
129	新しい組織運営の構築(横断的組織経営による新たな価値創造)	組織を横断的につないだ方が、新たな価値が生まれる可能性のある政策については、必要な人材が集い、事業として推進する権限を与える仕組みを構築する。横断的な組織経営を可能とするため、社会課題に対する新たな提案(新規事業)を受け付けることができる体制の整備と、組織・人材を横断的につなぐことができる人事管理の仕組みを構築することで組織の活性化を図る。
130	業務計画に応じた流動的な組織体制の構築	・施策の選択と集中にあわせた組織体制の中長期的な計画の作成 ・年間を通じた行政経営部門と各部の共同による人員の配置の検討 ・各部による第7次総合計画の推進のための各年ごとに流動的な人員配置
131	若手職員による庁内向け業務紹介の実施	庁内に向けて業務紹介をすることで、職員が他課の業務を具体的に知るきっかけにし、各職員が自分の特性にあった業務を選択しやすくする機会を増やす。
132	組織的なハラスメント防止策による誰もが働きやすい職場づくり	・ハラスメント防止研修の内容の充実 ・法的資格を有する相談員の配置 ・全ての職員が働きやすい職場を作るための行動計画の策定
133	多様なニーズに対応したコールセンターの設置	・出先部署を含めた全ての問い合わせに対応するコールセンターの設置(民間委託)を検討する。 《コールセンターの機能》 ・軽易な問合せについてはコールセンターで対応を完結させる。 ・年中無休で開庁時間外も対応できる体制とする。 ・FAXやメール、外国語の問い合わせにも対応する。 ・問い合わせの内容や件数をデータ化して蓄積・分析し、業務の改善や新規事業等に活用する。
134	実施事業の発信力の向上	1か月に2回程度のペースで、実施事業についてのアピール動画を作って市民課前の大型ビジョンに流す。 自分から情報を取りにいかない層にもアピール出来ると思われる。 パワーポイント資料をただ流すのではなく、職員へのインタビュー形式にする。
135	人材派遣制度等を活用した職員の能力向上	地方自治体への人材派遣を支援する国の制度等を活用し、民間人材を積極的に登用することで、組織に新しい血を入れ活性化を図るほか、デジタルや産業振興など専門の知識を持った人材のノウハウが還元されることで、職員の能力向上や行政の視点だけでは生まれにくかった先進的な施策の立案につながる事が期待できる。



### 3 庁内における政策提案 (3) 職員提案

番号	施策, 事業名	施策, 事業の概要(新たな取組)
136	専門職等の職員採用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員採用試験において、デジタル人材枠など、新たに専門職の採用枠を創設する。</li> <li>・職員採用試験において、新たに移住者専用の採用枠を創設する。</li> </ul>
137	福祉職・心理職の採用と人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉職・心理職の採用 福祉分野においては、今後ますます高度な仕組みづくりや支援が必要となることから、一部において、専門的な人材の採用を進めていく。</li> <li>・福祉職・心理職の人材育成 行政職員としての基礎的な能力を高める基本研修のほか、福祉職・心理職としての専門能力を高めるための研修を新設し、知識や技術、能力の向上を図っていく。</li> </ul>
138	新しい人材の開発(データサイエンスによるEBPMの実現)	<p>ビジネスカ(フレームワーク等のビジネス理論)、データサイエンスカ(統計学等の情報処理能力)、データエンジニアリングカ(IT, デジタル技術の活用能力)の3つの先進的なスキルを実装した人材が政策決定に参加できるよう、職員への研修支援や、外部ノウハウの活用等を図ることができる仕組みを構築する。 これにより、若くても優秀な人材が政策決定に関わる機会を確保するとともに、政策決定におけるEBPM(Evidence-Based Policy Making)を実現する。</p>
139	北関東や茨城県に対する「なんかダサイ」イメージからの脱却	<p>正職員としてデザイナーを採用する。もしくは官民協働で、市が発信する宣伝物のデザイン力向上に取り組むことで、視覚的に市のイメージアップを図ることができる。</p>
140	働きやすい環境の整備	フレックスタイム制度の導入
141	負担金等の効率的な徴取	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署で行っている料金や負担金について収納部門を統一する。</li> <li>・例規等の整理を行い情報の一元管理を可能にし、納付する市民の利便性を向上させる。</li> <li>・会計課との連携をスムーズにする。</li> </ul>
142	ふるさと納税への取り組み強化	<p>ふるさと納税を専門に扱う部署を設立し、次の業務を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなふるさと納税返礼品の開発</li> <li>・ふるさと納税の充当先(使用目的)の設定</li> <li>・本市へふるさと納税した方へのメール等での報告</li> </ul>
143	新たな財源確保による事業の推進	<p>ご当地WAONを活用した寄附及び事業実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康増進イベントや電子版健康手帳との紐づけ</li> <li>・連携中枢都市圏事業として導入</li> </ul>

## 水戸市第7次総合計画策定スケジュールについて

		計 画 策 定	総 合 企 画 審 議 会	市 民 参 加
令和4年度	2月	・基本構想・骨子「素案」取りまとめ		
	3月	(基本計画原案調整)	月上旬 (基本構想・骨子「素案」送付)	10～ ・意見公募手続 基本構想・骨子「素案」 (30日間) 中旬 ・eまちづくり提案 ～ (2週間)
令和5年度	4月			
	5月	・総合計画・骨子「素案」作成 ・6水総・施策の評価まとめ	中下旬 ◎第4回, 第5回 総合企画審議会 (骨子「素案」の審議)	
	6月	・総合計画・骨子「素案」作成	下旬 ◎第6回総合企画審議会 (骨子「素案」の審議)	
	7月			中旬 ・意見公募手続 ～ 総合計画骨子「素案」 (30日間) 下旬 ・eまちづくり提案 ～ (2週間)
	8月	・総合計画「素案」作成		月上旬 ・地域との懇談会 ～
	9月		下旬 ◎第7回総合企画審議会 (総合計画(素案)について審議) ○小委員会	・絵画・作文コンクール
	10月		○小委員会 (2委員会各4回) 下旬 ◎第8回総合企画審議会 (総合計画(素案)について審議)	中旬 ・意見公募手続 ～ 総合計画「素案」 (30日間)
	11月	・総合計画「案」取りまとめ  ・第7次総合計画(案)決定	中旬 ◎第9回総合企画審議会 (総合計画(案)及び答申(案)について審議) 中旬 ◎第10回総合企画審議会 (答申)	
	12月	●議案提出(第4回定例会) 特別委員会付託		
	令和6年	(審査)		
3月	□議決			